

荒砥上ノ坊遺跡Ⅲ

昭和57年度県営圃場整備事業荒砥北部
地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

歴史時代後半期の調査

《遺物観察表編》

1 9 9 7

群 馬 県 教 育 委 員 会

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

資	No. ⁹⁷⁻ 2686 平成 9 年 2 月 17 日	文化財	01-353
		団保管	628
			2(5)

荒砥上ノ坊遺跡Ⅲ

昭和57年度県営圃場整備事業荒砥北部
地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

歴史時代後半期の調査

《遺物観察表編》

1 9 9 7

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

例 言・凡 例

1. 本書は、昭和57年度県営圃場整備事業荒砥北部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書『荒砥上ノ坊遺跡Ⅲ』《遺物観察表編》である。
2. 遺物は、本文編に掲載した挿図中の実測図の順に掲載している。
3. 遺物の種類毎に表の書式は異なっている。
4. 遺物番号は挿図中の遺物番号に一致している。
5. 表中に使用した記号や略号は各々以下の通りである。

器種 《土器》「須恵器*」は、10世紀後半頃に出現するロクロ使用・酸化焰焼成の土器を示す。

法量 《土器》口：口縁部直径 底：底部直径 高：器高 胴：胴部最大径

なお、計測値に（ ）を付したものは復元値である。

《石器》・《金属器》法量は残存状態で計測した。厚さは、おおむね断面実測位置で計測した。

色調 陶磁器を除いて土器の色調は小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』農林水産省農林水産技術会議事務局監修を用いて記載した。
6. 土器の「器形・整形の特徴」の記述は、下記の文献における土器の記述に準拠しておこなった。

坂口一・三浦京子1986「奈良・平安時代の土器の編年―住居の重複と共伴関係による土器形式組列の検討―」群馬県史研究24号
7. 石器の石材については、飯島静雄氏（群馬県地質研究会会員）の分類・同定による。

目 次

1. 歴史時代前半期の出土遺物（第Ⅱ分冊補遺）…………… 1
2. 歴史時代後半期の出土遺物…………… 1

1. 歴史時代前半期の出土遺物 (第II分冊補遺)

2区10号住居出土遺物観察表《土器》第7図・PL24

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1583	土師器 杯形土器	口縁～体部1/4残存 口 (12.0cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	丸底から口縁部が短く内湾する。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部寛削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1584	土師器 杯形土器	口縁～底部1/4残存 口 (12.0cm)	埋没土	①微細黒色鉱物粒を多く含む ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	尖り気味の丸底から、口縁部が短く内傾する。 外面 口縁部横ナデ。体部横方向指ナデ。底部寛削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。

2区28号住居出土遺物観察表《土器》第8図・PL28

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1605	土師器 甕形土器	口縁～体部下位1/4残存 口 (20.4cm)	西壁際 床面上9cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5YR7/4	口縁部が一旦少し直立して、上位で外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向寛削り後、中位～下半縦方向寛削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向寛ナデ。
1612	須恵器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口 (12.4cm) 高 3.9cm 底 6.4cm	埋没土	①小礫を少量含む。 ②還元焰。 ③灰5Y5/1	底径がやや小さく、体部中位に膨らみをもつ。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1611	土師器 杯形土器	口縁部1/4欠損 口 13.0cm 高 3.3cm 底 10.3cm	竈内 使用面直上	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明褐7.5YR5/6	大きめの平底から、稜をもって直立に近く外反する体部に至る。口縁部は、さらに外反してから内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部指押さえ。底部寛削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。

2. 歴史時代後半期の出土遺物

I区3号住居出土遺物観察表《土器》第11図・PL1

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1446	土師器 椀形土器	口縁～高台部1/4残存 口 (14.0cm) 高 5.5cm 底 (7.0cm)	貯蔵穴内 底面上27cm	①細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5YR6/4	小さな平底から、大きく外反する体部に至る。口縁部は内湾する。やや高い高台を付す。 外面 口縁部横ナデ。体部斜方向寛削り後、上半指ナデ。墨書「安？」 内面 口縁部横ナデ。体部横方向細かい寛磨き。黒色処理。
1449	土師器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口 (12.0cm) 高 4.4cm 底 (7.0cm)	貯蔵穴 埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	小さめの底部から膨らみをもって、大きく外反する体部に至る。口縁部は肥厚し、やや内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部横方向寛削り後、上半指ナデ。底部砂底。周縁のみ寛削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1447	須恵器 高台付 椀形土器	底部残存 底 (8.0cm)	竈左前 床面上4cm	①細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③ (内) 黒褐10YR3/2 (外) 灰黄2.5Y7/2	断面台形の低い高台を付す。 外面 底部回転糸切り。無調整。付高台。
1448	須恵器 高台付 椀形土器	体部下位～高台部残存 底 7.0cm	竈 埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5Y6/4	わずかな丸みをもつ体部に、断面三角形の低い高台を付す。 外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1440	土師器 甕形土器	口縁～体部下位1/2残存 口 (18.2cm)	竈前 床面上22.5cm	①微細砂・小礫を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい褐7.5YR5/4	体部の膨らみは残るが、口縁部上位と下位の屈曲は弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向寛削り。下半縦・斜方向寛削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向寛ナデ。
1442	土師器 甕形土器	口縁～体部中位1/2残存 口 (18.0cm)	竈内 使用面上22cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③褐7.5YR4/4	器肉が厚く、口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向寛削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向寛ナデ。
1445	土師器 甕形土器	口縁部破片 口 (23.0cm)	南東隅 床面上1.5cm	①細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/6	胴部に膨らみをもって、口縁部が短く外反する。端部外面に面とりする。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向寛削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向寛ナデ。
1441	土師器 甕形土器	口縁～体部中位1/4残存 口 (19.2cm)	竈 埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	器肉が厚く、口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部斜方向寛削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向寛ナデ。
1443	土師器 甕形土器	口縁～体部上位1/4残存 口 (19.4cm)	竈 埋没土	①微細砂・小礫を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい赤褐5YR5/4	丸みのある体部上位から直立して、上位が短く外反する「コ」の字状の口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向寛削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向寛ナデ。

遺物観察表

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1444	土師器 甕形土器	口縁～体部上位破片 口 (19.0cm)	竈前 床面上22.5cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい赤褐5YR5/4	丸みをもつ体部上位から直立して、上位が短く外反する「コ」の字状の口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。
1450	須恵器 硯	1/2残存 高 3.3cm	埋没土	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰N5/	高さ1cmほどの縁にかこまれた盤状の本体に、棒状の脚が付けられている。粗雑な粘土紐で海と陸が区切られており、陸は顕著な平滑面になっている。全体は隅丸正方形に近いと思われ、脚もあと1対付されていたと考えられる。底部には布目圧痕がつけられている。

I区3号住居出土遺物観察表《金属器》第11図・PL1

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	材質	出土位置	形状・調整加工の特徴
M1	釘	7.0・1.2 0.6	鉄	北壁際 床面上4.5cm	やや巾広の鉄釘。先端部がわずかに欠損している。断面は正方形に近い方形。ほぼ完形。
M2	釘	5.8・1.2 0.5	鉄	貯蔵穴内 底面上42cm	先端部と頭部の一部が欠損している。断面は長方形に近い方形。同じ住居で出土したM1と同寸の釘と思われる。
M3	釘	5.0・1.4 0.5	鉄	貯蔵穴 埋没土	錆の固着が著しく、頭部の折れ曲がり部の形態は不明。先端部も欠損している。断面形は先端近くをみると長方形。

I区4号住居出土遺物観察表《土器》第13図・PL2

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1456	須恵器 高台付 椀形土器	口縁部1/2・高台部欠損 口 15.4cm	北壁隅P 底面上17.5cm	①細砂・小礫を多く含む。 ②還元焰。 ③灰オリーブ5Y6/2	大形で体部にわずかな丸みをもつ。底部内面に煤付着。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1457	須恵器 高台付 椀形土器	口縁～底部1/2残存 口 15.1cm 高 4.7cm 底 7.4cm	中央P 底面上4cm	①細砂・小礫を含む。 ②還元焰。 ③灰7.5Y6/1	丸みをもつ浅い体部から外反する口縁部に至り、断面台形の低い高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1458	須恵器 杯形土器	口縁部一部欠損 口 13.3cm 高 3.9cm 底 7.8cm	貯蔵穴 底面上21.5cm	①細砂・小礫を多く含む。 ②還元焰。 ③灰白5Y7/2	体部が直線的に外反する。口縁部内面端部に面とり。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1459	土師器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口 (12.6cm) 高 3.7cm	北壁際 床面上2cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/6	平底から、やや膨らみをもって外反する体部に至る。口縁部は、さらに外反して端部は内湾する。内面は玉縁状。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。中央部に無調整部分があり、大きくへこんでいる。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1453	土師器 甕形土器	口縁～体部上位1/2破片 口 (19.0cm)	埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙7.5YR6/6	丸みのある体部上位から直立して、短く外反する「コ」の字状の口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。
1451	土師器 甕形土器	口縁～体部1/2残存 口 (19.8cm)	埋没土	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5YR6/4	丸みのある体部から直立して、上方で短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部下縦方向篋削り後、上半横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。
1454	土師器 台付 甕形土器	口縁～体部上位1/2残存 口 (13.0cm)	貯蔵穴際 床面上19.0cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい褐7.5YR5/4	口縁部が一旦直立して上位で外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部上半横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上半横方向篋ナデ。
1452	土師器 甕形土器	体部下位～底部残存 底 (3.0cm)	竈前中央部 床面上2.0cm	①微細砂を少量含む。 ②酸化焰。 ③暗褐7.5YR3/3	ごく小さな底部から、外反する体部に至る。 外面 体部下位縦方向篋削り。底部篋削り。 内面 体部下位横方向篋ナデ。底部篋ナデ。
1455	土師器 台付 甕形土器	体部下位～上部残存 底 (9.8cm)	貯蔵穴 底面上33cm	①微細砂を少量含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5YR6/4	丸みのある体部から、裾が外反する短い台部に至る。 外面 体部縦方向篋削り。底部および接合部ナデ。 内面 体部横方向篋ナデ。底部および接合部ナデ。

I区5号住居出土遺物観察表《土器》第14図・PL3

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1462	土師器 杯形土器	完形 口 12.4cm 高 3.8cm 底 6.2cm	貯蔵穴南縁 床面上3cm	①微細砂・細砂を含む。橙色 鉄物粒を含む。②酸化焰。 ③褐灰10YR6/1	小さな平底から、大きく外反する体部に至る。口縁部はやや肥厚する。 外面 口縁部横ナデ。体部斜・横方向篋削り後、上部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1463	土師器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口 (12.4cm) 高 4.0cm 底 (6.0cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙7.5YR7/6	小さな底部から、大きく外反する体部に至る。口縁部はやや外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り後、上半指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部ナデ調整。
1460	土師器 甕形土器	口縁～体部中位1/2残存 口 17.7cm	竈左前 床面上2.5cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5YR7/4	ほとんど膨らみのない体部から、ゆるやかに短く外湾する口縁部に至る。 口縁部外面に面とり。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ後、縦方向篋磨き。内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ後、丁寧なナデ調整。 部分的に篋ナデ痕が残る。
1461	土師器 甕形土器	口縁～体部下位1/2残存 口 (20.0cm)	竈内 使用面上2.5cm	①微細砂・小礫を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい赤褐2.5YR4/4	器肉が厚く、胴部に膨らみをもって短く外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部下縦方向篋削り後、上位横方向篋削り、上端指ナデ。内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。

2. 歴史時代後半期の出土遺物

I区5号住居出土遺物観察表《石器》第14図・PL3

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 重 さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S142	円礫	10.1・10.1 4.9	粗粒輝石安山岩 810	埋没土	顕著な使用痕はないが、全体に平滑で、上面脇および下面の大部分に炭化物が付着している。
S141	敲石	8.6・6.2 4.8	粗粒輝石安山岩 385	埋没土	やや湾曲した棒状礫。小口の一端に敲打痕が残る。

I区9号住居出土遺物観察表《土器》第16・17図・PL5・6

番号	器種	残 法	存 量	出土位置	①胎土・②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1469	土師器 杯形土器	口縁～底部1/2残存	口 (12.1cm)	P2西 床面直上	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	やや膨らんだ大きめの平底から、鋭い稜をもって体部に至る。体部はやや膨らみをもって外反する。口縁端部はやや内湾する。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1468	土師器 杯形土器	口縁部1/2欠損	口 12.2cm 高 3.4cm	貯藏穴内 底面直上	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	大きめの平底から、稜をもって直立に近く外反する体部に至る。口縁部は肥厚し、さらに外反してからやや内湾する。 外面 口縁部横ナデ。体部斜・横方向指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ調整。
1470	土師器 杯形土器	口縁～底部1/2残存	口 (12.0cm) 高 3.3cm	埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい赤褐5YR5/4	平底から、やや膨らみをもって外反する浅い体部に至る。口縁部はさらに外反し、端部は内湾する。内面端部玉縁状。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1471	土師器 杯形土器	口縁～底部破片	口 (12.3cm) 高 3.2cm	埋没土	①細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	大きめの平底から、稜をもって直立に近く外反する体部に至る。口縁部は外反し、端部は内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1472	土師器 杯形土器	口縁～底部1/2残存	口 (14.0cm) 高 3.6cm 底 (8.0cm)	埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	平底から稜をもって外反する大形の体部に至る。口縁部は内湾し、内面端部は玉縁状。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1485	須恵器 杯形土器	口縁～底部1/2残存	口 (12.4cm) 高 3.2cm	埋没土	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰N4/	体部中位に膨らみをもち、口縁部が反り気味に開く。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1475	須恵器 杯形土器	口縁～底部1/2残存	口 (13.4cm) 高 3.6cm 底 6.0cm	中央北西寄り 床面直上	①細砂・小礫を含む。 ②還元焰。 ③黄灰2.5Y6/1	底径が小さく、わずかな膨らみをもつ体部から、小さく外反する口縁部に至る。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1484	須恵器 杯形土器	完形	口 12.6cm 高 3.2cm 底 7.7cm	埋没土	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y6/1	体部が直線的に外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1477	須恵器 杯形土器	口縁部一部欠損	口 (12.8cm) 高 3.8cm	貯藏穴西 床面下16.5cm	①細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰オリーブ5Y6/2	底径が小さく、口縁部が外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1476	須恵器 杯形土器	ほぼ完形	口 12.2cm 高 3.5cm 底 5.2cm	中央部 床面上7.5cm	①微細砂とわずかな細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰白5Y7/1	底径が小さく、口縁部が外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1480	須恵器 杯形土器	ほぼ完形	口 13.0cm 高 3.1cm 底 6.2cm	貯藏穴内 底面直上	①微細砂と少量の小礫を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい褐7.5YR5/4	体部が直線的に外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1483	須恵器 杯形土器	口縁部一部欠損	口 (13.2cm) 高 3.1cm 底 7.0cm	埋没土	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③黄灰2.5Y6/1	体部が浅く、直線的に外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、周縁部ナデ。
1482	須恵器 高台付 碗形土器	体部中位～高台部1/2残存	底 8.7cm	埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y6/1	わずかな膨らみをもつ深い体部に、開いた高台を付す。 内外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。付高台。
1479	須恵器 杯形土器	口縁部1/2残存	口 13.0cm 高 3.8cm 底 7.2cm	貯藏穴内 底面上1.5cm	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰白5Y7/2	体部中位に膨らみをもつ。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1478	須恵器 杯形土器	口縁部一部欠損	口 12.6cm 高 3.5cm 底 6.0cm	貯藏穴内 底面上20.5cm	①細砂・小礫を多く含む。 ②還元焰。 ③灰7.5Y5/1	底径が小さく、口縁部が大きく外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1481	須恵器 蓋形土器	ほぼ完形	口 11.0cm 高 3.2cm	北西隅 床面下6.5cm	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰N5/	水平の天井部から、直線的に開く体部を経て、垂直に折れる口縁部に至る。宝珠形のつまみを付す。 内外面 口縁部～天井部回転ナデ調整。
1487	須恵器 甕形土器	体部中位破片	最 (70.0cm)	埋没土	①細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y5/1	体部中位に最大径をもつと思われる大甕の体部破片。 外面 体部平行タタキ。 内面 体部同心円状タタキ。
1486	須恵器 甕形土器	頸部～体部上位破片		埋没土	①黒色鉱物細粒が目立つ。 ②還元焰。 ③灰5Y5/1	肩の張る体部。 外面 体部平行タタキ。 内面 体部同心円状タタキ。

遺物観察表

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1465	土師器 甕形土器	口縁～体部下位残存 口 19.4cm	南甕右袖 床面上8cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい赤褐2.5YR5/4	体部の膨らみはあるが、口縁部の上位・下位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。指頭痕残る。体部上半横・斜方向篋削り。下半縦方向篋削り。内面 体部横方向篋ナデ。
1466	土師器 甕形土器	口縁～体部残存 底部一部残存 口 20.2cm 高 28.5cm 底 (4.4cm)	北甕内 使用面直上	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	体部の膨らみが小さく、口縁部上位と下位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位斜方向篋削り後、中位～下位縦方向篋削り。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部横方向篋ナデ。
1467	土師器 台付 甕形土器	口縁～台部1/2残存 口 (12.6cm) 高 15.9cm 底 (8.0cm)	貯蔵穴内 底面上15cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	丸みのある体部から直立して、上位で短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り、下半縦方向篋削り。底部および接合部ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。底部および接合部ナデ。
1473	土師器 甕形土器	口縁～体部下位3/4残存 口 (20.0cm)	南甕左袖 使用面上3cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/6	丸みのある体部から直立して、短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、下半縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。
1474	土師器 甕形土器	口縁～体部下位1/2残存 口 (20.4cm)	埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙7.5YR6/6	丸みのある体部から直立して、上方で短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部下半縦方向篋削り。中位斜方向篋削り、上位横方向篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。
1464	土師器 甕形土器	口縁～体部下位残存 口 (19.3cm)	東壁寄り 床面下13cm	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/6	体部の膨らみが小さく、口縁部の下位と上位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部中位～下半縦方向篋削り。

I区9号住居出土遺物観察表《石器》第18図・PL6

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S144	紡錘車	上径 5.7 下径 2.7 厚さ 1.6	砥沢石 62.3	埋没土	薄形の紡錘車。完形。上面は周縁部がやや膨らみ、中央部がへこんでいる。一部に使用時の敲打状の欠損がある。下面および側面は、成形時のものと思われる線条痕が残る。
S143	紡錘車	上径 4.4 下径 3.3 厚さ 1.1	蛇紋岩 41.7	P1脇 床面下6cm	薄形の紡錘車。完形。上端縁は使用により欠損部が目立つ。上面に「羊」「美」「東」の3刻書がみられる。側面にも一部に刻線が観察できるが、文様なのか使用による擦痕なのか断定できない。
S145	碁石	1.5・2.1 0.5	砂岩 2.1	埋没土	隅丸三角形の扁平な石。完形。顕著な整形痕は認められないが、つるつるしている。
S149	磨石 敲石	14.2・12.2 4.0	粗粒輝石安山岩 1190	埋没土	扁平な円礫の側縁に敲打痕が残る。上面中央には磨り面が残る。
S147	敲石	15.4・7.0 5.15	粗粒輝石安山岩 820	埋没土	一端が破損している棒状礫。小口の一端に浅い敲打痕が残る。また、右側面中央に荒い摩擦面がある。
S148	敲石	14.5・5.4 4.5	粗粒輝石安山岩 590	埋没土	棒状礫。小口の両端に、浅く広い敲打痕が残る。右側面にも、細かな敲打痕が広く残る。
S146	敲石	19.8・6.3 5.2	粗粒輝石安山岩 840	埋没土	小口の一端に敲打痕が残る。

I区9号住居出土遺物観察表《金属器》第18図

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	材 質	出土位置	形状・調整加工の特徴
M5	針?	9.9・0.4 0.5	鉄	P1西脇 床面直上	両端が細く尖った針状の鉄製品。断面は正方形。完形。

I区11号住居出土遺物観察表《土器》第19図・PL7

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1489	須恵器 杯形土器	口縁～底部3/4残存 口 (13.4cm) 高 4.0cm 底 6.0cm	中央 床面上7.5cm	①細砂・小礫を含む。 ②還元焰。 ③灰白5Y8/1	底径が小さく、口縁部が外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1490	須恵器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口 (13.7cm) 高 3.4cm 底 7.2cm	南壁際 床面上3.5cm	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰白7.5Y7/1	直線的で浅い体部。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部磨耗が著しいが、回転糸切り無調整と考えられる。

I区12号住居出土遺物観察表《土器》第21図・PL7

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1491	土師器 甕形土器	口縁～体部上位1/2残存 口 (20.2cm)	甕壁 使用面上4.5cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	丸みのある体部上位から直立して、上位が短く外反する「コ」の字状の口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。
1492	須恵器 杯形土器	口縁部一部欠損 口 12.5cm 高 3.1cm 底 6.7cm	南壁際 床面直上	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰白5Y8/1	浅い体部から、口縁部が外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1493	須恵器 杯形土器	口縁部一部欠損 口 12.7cm 高 3.6cm 底 6.5cm	南壁際 床面上5cm	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y6/1	底径が小さく、やや深い体部。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、周縁部回転ナデ調整。

2. 歴史時代後半期の出土遺物

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1494	須恵器 杯形土器	口縁部一部欠損	口 12.9cm 高 3.5cm 底 6.2cm	貯蔵穴内 底面上4cm	①微細砂を多く含む。 ②還元焰。 ③灰7.5Y6/1	底径が小さく、やや深い体部から口縁部が外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。無調整。

I区14号住居出土遺物観察表《土器》第23図・PL 8

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1497	土師器 杯形土器	完形	口 12.1cm 高 3.4cm 底 8.4cm	南P壁 底面上22cm	①微細砂を少量含む。 ②酸化焰。 ③橙7.5YR6/6	平底から、やや膨らみをもって外反する体部に至る。口縁部はさらに外反し、端部は内湾する。内面端部は玉縁状。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1498	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存	口 (12.0cm) 高 3.5cm 底 (7.4cm)	中央P内 底面上27cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	平底からやや膨らみながら、大きく外反する体部に至る。口縁部はやや内湾する。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1496	須恵器 杯形土器	口縁部 $\frac{1}{4}$ 欠損	口 13.0cm 高 4.0cm 底 6.3cm	北壁際 床面上9.5cm	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰白7.5Y7/1	底径が小さく、直線的に開く体部。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り後、周縁ナデ調整。
1495	須恵器 高台付 椀形土器	口縁部 $\frac{1}{4}$ 欠損	口 14.5cm 高 6.0cm 底 7.3cm	南東隅 床面上4.5cm	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰7.5Y5/1	わずかな膨らみをもつ深い体部で、断面が方形の高台を付す。体部に口クロ痕が顕著。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。無調整。付高台。

I区15号住居出土遺物観察表《土器》第25図・PL 9

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1503	須恵器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{4}$ 残存	口 (13.2cm) 高 3.9cm 底 6.0cm	南東貯蔵穴内 底面上5.5cm	①微細砂とわずかな小礫を含む ②還元焰。 ③灰黄2.5Y7/2	浅い体部から口縁部が外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。無調整。
1504	須恵器 杯形土器	口縁～体部下位 $\frac{3}{4}$ 残存	口 14.0cm 高 4.6cm 底 6.3cm	南東貯蔵穴内 底面上7cm	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰白5Y7/2	体部が深く、底径が小さい。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。
1502	須恵器 高台付 椀形土器	口縁～底部 $\frac{1}{4}$ 残存	口 (15.2cm) 高 4.9cm 底 7.0cm	南東貯蔵穴内 底面下7.5cm	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰5YR5/1	浅い体部が直線的に外反し、開いた低い高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。付高台。
1505	須恵器 高台付 椀形土器	口縁～底部 $\frac{1}{4}$ 残存	口 (16.4cm)	竈前P 底面下5.5cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい黄橙10YR7/3	丸みをもつ浅い体部から、外反する口縁部に至る。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。付高台。
1501	土師器 甕形土器	体部下位～底部残存	底 3.4cm	北部 床面上3cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい黄橙10YR6/4	小さな平底から、直線的に外反する体部に至る。 外面 体部下位縦方向篋削り。底部篋削り。 内面 体部下位～底部横方向篋削り。
1500	土師器 甕形土器	口縁～体部上位 $\frac{1}{2}$ 残存	口 (20.6cm)	P内 底面上7cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5YR6/4	丸みをもつ体部上位から直立して、上位が短く外反する「コ」の字状の口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。指頭痕残る。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。指頭痕残る。体部上位横方向篋削り。
1499	土師器 甕形土器	口縁～体部上位 $\frac{1}{4}$ 残存	口 (19.2cm)	甕石袖 崩落土中	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5YR7/4	丸みのある体部上位から直立して、上位が短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。

I区15号住居出土遺物観察表《石器》第25図・PL 9

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石重 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S150	紡錘車	上径 4.4 下径 3.4 厚さ 1.4	蛇紋岩 43.5	北東隅 床面上7cm	薄形の紡錘車。上面縁の一部が欠損しているがほぼ完形。上面は平滑で、「元井」の刻書がある。側面は、使用時の擦痕とみられる線条痕が多くみられるが、図示した線は「和」「斤」の刻書の可能性もある。下面は自然面に近い状態であり、使用によりつるつるした質感になっている。
S151	磨石 敲石	18.9・6.8 4.6	粗粒輝石安山岩 900	埋没土	棒状礫の両端に敲打痕が残る。上面右半には、磨面があり3条の凹線がみられる。一部欠損。
S193	竈構築材	28.3・15.5 6.8	粗粒輝石安山岩 348	埋没土	扁平な軽石。竈の構築材として使用されていたと考えられる。下端は被熱により、変色している。

I区16号住居出土遺物観察表《土器》第26図・PL 9

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1506	須恵器 杯形土器	完形	口 13.0cm 高 4.5cm 底 5.4cm	南部 床面直上	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③灰7.5Y6/1	底径が小さく、体部は直線的に外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。無調整。

遺物観察表

I区17号住居出土遺物観察表《土器》第28区・PL11

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1226	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存	口 (12.0cm) 高 3.4cm	竈右袖 使用面上5.5cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/8	やや膨らんだ大きめの平底から、鋭い稜をもって体部に至る。体部はやや膨らみをもって外反する。口縁端部はやや内湾。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1227	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存	口 (12.7cm) 高 3.2cm	南東隅 床面上4.5cm	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙2.5YR6/6	やや膨らんだ平底から、鋭い稜をもって体部に至る。体部はやや膨らみをもって外反する。口縁端部はやや内湾。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1228	土師器 杯形土器	口縁部一部欠損	口 12.0cm 高 3.5cm	南東隅 床面上2.5cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明褐7.5YR5/6	大きめの平底から、稜をもって外反する体部に至る。口縁部と体部の間には段があり、口縁部は内湾する。内面端部は玉縁状。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1229	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存	口 (12.1cm) 高 3.5cm	竈右袖 使用面上5.5cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙2.5YR6/6	大きめの平底から、稜をもって直立に近く外反する体部に至る。口縁部は内湾する。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1230	土師器 杯形土器	口縁部一部欠損	口 (12.4cm) 高 3.7cm	竈右袖 使用面上5.5cm	①微細砂・砂粒を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5YR6/4	大きめの平底から、直立に近く立ち上がる深めの体部に至る。口縁部は外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1231	土師器 杯形土器	口縁部 $\frac{1}{4}$ 欠損	口 12.2cm 高 3.2cm 底 9.1cm	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明褐7.5YR5/6	大きめの平底から、稜をもって外反する体部に至る。口縁部と体部の間には段があり、口縁端部は内湾する。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。指押さえ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1232	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存	口 (12.4cm) 高 3.0cm	掘り方埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	大きめの平底から、稜をもって、直立に近く外反する体部に至る。口縁部はさらに外反してから内湾する。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1233	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{4}$ 残存	口 (12.0cm) 高 3.1cm 底 (9.0cm)	掘り方埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	大きめの平底から鋭い稜をもって体部に至る。体部はやや膨らみをもって外反する。口縁部はやや内湾する。 外面 口縁部横ナデ。体部指押さえ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1237	須恵器 杯形土器	口縁～底部破片	口 (13.6cm) 高 3.5cm 底 (7.0cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい赤褐5YR5/4	体部が直線的に外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ調整。底部回転系切り。無調整。
1238	須恵器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存	口 (11.0cm) 高 4.1cm 底 (7.2cm)	埋没土	①微細砂を少量含む。 ②還元焰。 ③灰白7.5Y7/1	底径が小さく、体部が直線的で深い。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。無調整。部分的に篋痕が残る。
1236	須恵器 杯形土器	口縁部一部欠損	口 12.2cm 高 3.6cm 底 6.6cm	中央やや西 床面上4cm	①黒色鉱物粒を多く含む。 ②還元焰。 ③灰白N7/	あげ底気味の底部から、体部下位に膨らみをもち、口縁部が反り気味に開く。 内外面 口縁部～体部回転ナデ調整。底部回転系切り。無調整。
1240	須恵器 蓋形土器	天井～口縁部 $\frac{1}{4}$ 破片	口 (15.0cm)	掘り方埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰N6/	水平な天井部から、ゆるやかに湾曲する体部を経て、口縁部が垂直に折れる。 内外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。
1239	須恵器 蓋形土器	天井～口縁部 $\frac{1}{4}$ 破片	口 (20.0cm)	埋没土	①微細砂・細砂を多く含む。 ②還元焰。 ③灰白5Y7/1	ゆるやかに湾曲する体部から、垂直に折れる口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部回転篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。
1221	土師器 台付 甕形土器	口縁～体部上位残存	口 (13.2cm)	中央やや東寄 床面上28cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	体部の膨らみはあるが、口縁部下位と上位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位ナデ。
1222	土師器 甕形土器	口縁部破片	口 (20.6cm)	竈中央 使用面直上	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙2.5YR6/8	「コ」の字状の口縁部を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。
1223	土師器 甕形土器	口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存	口 (21.0cm)	埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	体部の膨らみが小さく、口縁部下位と上位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。
1224	土師器 甕形土器	口縁～体部中位 $\frac{1}{2}$ 残存	口 (20.4cm)	埋没土	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/8	胴部の膨らみが小さく、口縁部の「コ」の字状がくずれている。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。中位縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。
1225	須恵器 甕形土器	口縁～体部上位破片		埋没土	①細砂・白色小礫を多く含む。 ②還元焰。 ③灰N5/	肩の張る体部から、直立に近く外反する高い口縁部に至る。 外面 口縁部～体部紐づくり成形。回転ナデ。 内面 口縁部～体部回転ナデ。
1234	土師器 鉢形土器	口縁～体部下位 $\frac{1}{2}$ 残存	口 (21.6cm)	掘り方埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5YR6/4	ハの字に大きく外反する。口縁部はゆるやかな波状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部縦方向篋削り後、斜方向篋磨き。 内面 口縁部横ナデ。体部上半横・縦方向ハケメ後ナデ。下半横方向篋削り。
1235	須恵器 瓶	体部中位～底部残存	底 5.2cm	北西やや中央 寄り 床面直上	①細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y5/1	小さな底部から、やや膨らみをもって立ち上がる体部に至る。 外面 体部回転ナデ。下端のみ横方向回転篋削り。底部回転系切り離し無調整。 内面 体部回転ナデ。

2. 歴史時代後半期の出土遺物

I区17号住居出土遺物観察表《石器》第28図・PL11

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S123	敲石	14.1・5.2 4.35	変質安山岩 490	埋没土	断面が三角形の棒状礫。小口の一端に敲打痕が残る。完存。

I区18号住居出土遺物観察表《土器》第30図・PL11

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1509	須恵器 高台付 椀形土器	口縁～底部1/4残存 口 (15.2cm) 高 5.2cm 底 (7.3cm)	南東隅 床面上16cm	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR6/6	直線的な深い体部で、断面台形の低い高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1511	灰釉陶器 高台付 椀形土器	底部1/4残存 底 (6.4cm)	埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焙。 ③灰白5Y8/1	わずかな丸みをもって、立ち上がる体部に三日月形の高台を付す。 外面 体部回転ナデ。底部回転篋切り。高台接合部ナデ。 内面 体部～底部回転ナデ。
1512	須恵器 鉢形土器	口縁～体部下位1/4残存 口 (19.4cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②還元焙。 ③灰N6/	丸みをもった体部から、外反する口縁部。 内外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ調整。
1508	須恵器 高台付 長頸壺	体部中位～底部1/4残存 底 (10.0cm)	東 床面上3cm	①細砂・小礫を含む。 ②還元焙。一部酸化焙。 ③にぶい黄褐10YR6/4	平底からやや膨らみをもって立ち上がる体部に至る。断面長方形の高台を付す。外面 体部紐づくり成形。回転ナデ。底部糸切り離し後、ナデ調整。付高台。内面 体部～底部回転ナデ。
1510	土師器 甕形土器	口縁～体部上位1/4残存 口 (17.0cm)	埋没土	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR6/6	丸みをもつ体部上位から直立して、上位が短く外反する「コ」の字状の口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。
1507	須恵器 甕形土器	口縁下半～体部下位 1/4残存 頸 35.0cm 最 71.0cm	中央部 床面上17.5cm	①細砂を含む。 ②還元焙。 ③灰5Y5/1	やや肩のある体部から、高く外反する口縁部に至る。体部中位はややへこみ、下位は膨らむ。 内外面 ナデ調整。タタキ目は残っていない。

I区18号住居出土遺物観察表《金属器》第30図

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	材 質	出土位置	形状・調整加工の特徴
M6	鎌?		鉄	東中央部 床面上16cm	茎子の残る基部と刃部中央部の破片。

I区28号住居出土遺物観察表《土器》第31図・PL12

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1513	土師器 甕形土器	口縁～体部上位1/4残存 口 (20.4cm)	竈前 床面上6.5cm	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③にぶい褐7.5YR5/4	器肉が厚く、口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位木端状工具による横方向篋ナデ。
1514	土師器 甕形土器	口縁～底部1/4残存 口 (18.8cm) 高 23.7cm 底 (6.6cm)	竈前 床面直上	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③にぶい黄褐10YR5/4	器肉が厚く、口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。口縁端部は内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、下半縦方向篋削り。底部砂底。内面 口縁部横ナデ。体部～底部横方向篋ナデ。
1515	土師器 甕形土器	口縁部破片 口 (20.0cm)	竈前 床面上5cm	①微細砂を少量含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐2.5YR5/6	膨らみをもつ体部から、肥厚して短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位指ナデ。指押さえ。中位ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。中位粗いハケメ。

I区31号住居出土遺物観察表《土器》第32図・PL12

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1517	土師器 高台付 椀形土器	口縁～体部一部欠損 口 14.7cm 高 5.5cm 底 7.2cm	中央南寄り 床面直上	①細砂・小礫を多く含む。 ②酸化焙。 ③淡黄2.5Y8/3	小さい平底から、大きく外反する体部に至る。体部は屈曲が著しい。 外面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り後、上半ナデ調整。墨書「生」が残る。底部篋削り後、付高台。内面 口縁部横ナデ。体部～底部横方向の細かい篋磨き。黒色処理。
1516	須恵器 高台付 椀形土器	口縁～底部一部欠損 口 14.2cm 高 5.8cm 底 7.7cm	竈内 使用面上13cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③浅黄橙10YR8/3	体部がわずかな丸みをもって、大きく外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。

I区32号住居出土遺物観察表《土器》第33図

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1518	土師器 椀形土器	口縁部破片 口 (14.3cm)	竈前 床面上5cm	①細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③明褐7.5YR5/6	大きく開く体部から、さらに外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部縦方向篋削り。 内面 口縁部ナデ後、横方向篋磨き。体部縦方向篋磨き。黒色処理。
1519	土師器 台付 甕形土器	台部残存 底 6.6cm	埋没土	①微細砂・砂粒を含む。 ②酸化焙。 ③にぶい赤褐5YR5/4	小さくハの字に開く台部。端部の一部がへこんで変形している。 外面 台部横ナデ。裾部横ナデ。 内面 台部篋ナデ。裾部横ナデ。

遺物観察表

I区33号住居出土遺物観察表《土器》第35図・PL13

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1248	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{6}$ 欠損 口 12.4cm 高 3.2cm 底 7.5cm	貯蔵穴 底面上19cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③にぶい赤褐5YR5/4	平底から、やや膨らみをもって外反する浅い体部に至る。口縁部はさらに外反し、端部は内湾して内面は玉縁状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1249	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{4}$ 残存 口 (11.6cm) 高 3.4cm	貯蔵穴 底面上19cm	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③にぶい橙7.5YR6/4	大きめの平底から、稜をもって直立に近く外反する体部に至る。口縁部は外反する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1250	須恵器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 12.8cm 高 3.8cm 底 6.5cm	貯蔵穴内 底面上24cm	①微細砂・赤色鉱物粒を多く含む。②酸化焙。 ③にぶい黄褐10YR5/3	体部が直線的に外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1251	須恵器 蓋形土器	摘み欠損 口 9.3cm	北東隅 床面上16cm	①細砂・小礫を含む。 ②還元焙。 ③灰5Y5/1	水平な天井部から、ゆるやかな体部に至り、垂直に下方に折れる。 内外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。

I区33号住居出土遺物観察表《金属器》第35図・PL13

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	材質	出土位置	形状・調整加工の特徴
M8	馬具 引手金具	13.0・2.5	鉄	貯蔵穴東脇 床面上18cm	断面隅丸方形の棒状の軸に、内径1.3cmほどの環がつけられている。軸と角度をなしている ので手綱側の引手壺と推定される。遊金に絡む、もう一方の環は欠損している。
M9	馬具 銜	15.2	鉄	貯蔵穴内 底面上24cm	中央の小環で絡む二連の銜。一方の銜先端部の環は欠損している。
M10	馬具 駁具	破片	鉄	埋没土	駁具の屈曲部の破片。

I区35号住居出土遺物観察表《土器》第36図・PL14

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1254	土師器 杯形土器	口縁部 $\frac{1}{4}$ 欠損 口 (12.0cm) 高 3.1cm	南西 床面下5.5cm	①微細砂を少量含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR6/6	大きめの底部から、稜をもって直立に近く外反する体部に至る。口縁部はさらに外反してから内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1255	須恵器 杯形土器	口縁部 $\frac{1}{4}$ 欠損 口 12.0cm 高 3.3cm 底 7.8cm	南東部 床面下20cm	①微細砂・小礫を含む。 ②酸化焙。 ③にぶい黄褐10YR5/3	平底の底部から、わずかな膨らみをもって外反する体部に至る。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。周縁のみ回転篋削り。
1256	須恵器 高台付 椀形土器	底部残存 底 8.8cm	南西 床面上1.5cm	①微細砂・白色鉱物粒を含む ②還元焙。 ③灰5Y6/1	断面台形の高台を付す。 内外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。付高台。底部内面に三孔が穿たれている。
1252	土師器 埴形土器	口縁部 $\frac{3}{4}$ 欠損 口 9.2cm 高 7.5cm 底 3.9cm	南東 床面上2cm	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR6/6	少しへこんだ平底から、算盤玉形の体部。短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。頸部縦方向篋削り。体部横方向篋削り。上半横方向篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。
1253	土師器 甕形土器	口縁部破片 口 (21.0cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐2.5YR5/6	くずれた「コ」の字状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。

I区36号住居出土遺物観察表《土器》第37図・PL14

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1521	須恵器 羽釜	口縁部破片 口 (19.6cm)	西壁際 床面上1.5cm	①微細砂・小礫を含む。 ②還元焙。 ③灰白2.5Y8/2	やや内湾して立ち上がる口縁部。 内外面 口縁部横ナデ。
1565	土師器 杯形土器	ほぼ完形 口 12.3cm 高 3.6cm 底 6.8cm	西壁際 床面上1.5cm	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焙。 ③にぶい黄橙10YR6/3	小さめの平底から大きく外反する体部に至る。口縁部はやや直立気味。 外面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り後、上半指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1520	須恵器 杯形土器	口縁～底部破片 口 (12.8cm)	竈前方 床面直上	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐5YR5/6	体部が直線的に外反する。器内が厚い。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切りか？
1522	須恵器 高台付 椀形土器	底部・高台部残存 底 6.9cm	中央部南西寄 床面上2cm	①微細砂を多く含む。 ②還元焙。 ③にぶい黄橙10YR7/2	小形で体部にやや丸みもち、細く高い高台を付す。 外面 体部回転ナデ。底部切り離し技法不明。付高台。
1566	土師器 甕形土器	口縁～底部 $\frac{1}{4}$ 残存 口 (23.4cm) 高 28.3cm 底 6.0cm	竈左 床面上4cm	①細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐5YR5/6	器内が厚く、口縁部がくずれた「コ」の字を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部中位縦方向篋削り、下位斜方向篋削り、上位横方向篋削り。指頭痕残る。底部砂底。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部横方向篋削り。

2. 歴史時代後半期の出土遺物

I 区38号住居出土遺物観察表《土器》第38図・PL15

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1526	須恵器 蓋形土器	口縁部破片 口 (20.0cm)		住居内Pの南 床面直上	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③褐灰10YR6/1	天井部からゆるやかに屈曲する。内傾する短いカエリを付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。
1524	須恵器 杯形土器	口縁部1/2欠損 口 (13.2cm) 高 4.5cm 底 5.8cm		南東 床面上6cm	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰黄2.5Y6/2	底径が小さく、やや体部が深い。口縁部は外反し、端部は肥厚する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1525	須恵器 杯形土器	口縁～体部下位1/4欠損 口 (13.6cm) 高 4.5cm 底 5.4cm		住居内Pの南 床面上4.5cm	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰黄2.5Y6/2	底径が小さく、体部中位が膨らんで、口縁部が外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、ナデ。

I 区38号住居出土遺物観察表《石器》第38図・PL15

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石重 材重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S152	砥石	7.6・4.0 1.65	砥沢石 110.9	中央部 床面直上	上面・下面が使用されている。左側面には細い刻線が多く残る。一部が煤けている。完形。
S153	棒状礫	12.8・6.1 2.9	閃緑岩 330	埋没土	扁平な棒状礫。顕著な使用痕はない。一部欠損。

I 区39号住居出土遺物観察表《土器》第39図・PL15

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1528	須恵器 高台付 椀形土器	口縁～底部1/2残存 口 (15.0cm) 高 6.1cm 底 (6.8cm)		竈左 床面直上	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③暗灰N3/1	小さめの底部から、下位に少し膨らみをもつ深い体部に至る。口縁部は外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1527	土師器 高台付 椀形土器	口縁部一部欠損 口 14.9cm 高 6.7cm 底 7.6cm		竈右 床面直上	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③ (内) 黒N2/ (外) ぶい黄橙10YR6/3	丸みをもつ体部で細く開いた高台を付す。 外面 口縁部横ナデ。体部斜方向笊削り。底部ナデ。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部横方向細かい笊磨き。内面黒色処理。

I 区45号住居出土遺物観察表《土器》第40図・PL16

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1545	須恵器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口 (12.5cm) 高 3.5cm 底 (6.0cm)		埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰オリーブ5Y6/2	中位に膨らみをもつ浅い体部。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1544	土師器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口 (12.0cm) 高 3.4cm 底 8.3cm		埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	大きめの平底から、鋭い稜をもって外反する体部に至る。口縁部は外反する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。指押さえ。底部笊削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1542	須恵器 高台付 椀形土器	口縁～体部下位1/2欠損 口 (14.9cm) 高 5.8cm 底 7.0cm		南東隅 床面上1.5cm	①微細砂・細砂・小礫を多く含む。②還元焰。 ③灰5Y5/1	下位に丸みをもつ深い体部で、断面長方形の低い高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1543	土師器 台付 甕形土器	口縁～体部中位残存 口 11.4cm		埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	丸みのある体部から直立し、上方で短く外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部横方向笊削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向笊ナデ。

I 区46号住居出土遺物観察表《土器》第41図

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1529	須恵器* 杯形土器	口縁～体部下位破片 口 (12.7cm)		竈内 使用面上3.5cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③ぶい黄橙10YR6/4	体部下位に丸みをもって、口縁部が小さく外反する。底径は小さいと思われる。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。
1530	須恵器* 高台付 椀形土器	底部・高台部1/2破片 底 (7.4cm)		竈内 使用面直上	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明黄褐10YR6/6	端部の丸い高台部を付ける。 外面 底部回転ナデ。 内面 底部回転ナデ。
1531	須恵器* 高台付 椀形土器	底部・高台部残存 底 7.0cm		竈内 使用面上3.5cm	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰? ③ぶい黄橙10YR7/4	わずかな膨らみをもつ体部で、断面長方形の低い高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1532	土師器 甕形土器	口縁～体部上位破片 口 (19.3cm)		竈内 使用面上3.5cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明褐7.5YR5/6	器肉が厚く、口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向笊削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向笊ナデ。
1533	土師器 甕形土器	口縁部破片 口 (22.0cm)		竈内 使用面上3.5cm	①砂粒・金雲母片・石英粒を多く含む。②酸化焰。 ③ぶい黄橙10YR7/2	やや内湾する口縁部。 外面 口縁部横ナデ。体部横方向笊削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向笊ナデ。

遺物観察表

I区46号住居出土遺物観察表《石器》第41図・PL16

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 重 さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S154	敲石	14.0・6.9 4.85	溶結凝灰岩 725	埋没土	やや扁平な棒状礫。うすくなった左側面から、小口の一端にかけて敲打痕が残る。完存。

I区53号住居出土遺物観察表《土器》第42図

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1534	土師器 甕形土器	口縁～体部上位破片 口 (17.2cm)	竈前方 床面上5.5cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③褐7.5YR4/6	丸みをもつ体部上位から直立して、上位が短く外反する「コ」の字状の口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部上位横・斜方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。

I区53号住居出土遺物観察表《石器》第42図・PL17

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 重 さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S155	磨石 敲石	14.3・7.9 3.0	粗粒輝石安山岩 570	埋没土	扁平な円礫の上面に磨り面が残る。小口下端と左側面に敲打痕が残る。完存。
S156	敲石	11.6・6.6 3.6	粗粒輝石安山岩 360	埋没土	棒状礫の敲石。小石に敲打痕が残る。半欠。

I区54号住居出土遺物観察表《土器》第43図

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1536	須恵器 杯形土器	口縁～体部下位1/2残存 口 (15.0cm)	南東 床面上4cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②還元焰。 ③灰黄2.5Y7/2	体部がわずかな丸みをもって大きく外反する。口縁部内面端部に面とり 内外面 口縁部～体部回転ナデ。

I区54号住居出土遺物観察表《石器》PL17

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 重 さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S157	棒状礫	15.0・5.5 4.6	粗粒輝石安山岩 700	埋没土	顕著な使用痕跡は認められないが、何らかの使用目的のために、住居内に持ちこまれたと考えられる。

I区56号住居出土遺物観察表《土器》第44図・PL17

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1540	須恵器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口 (13.0cm) 高 3.7cm 底 (5.7cm)	埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰N4/	底径が小さく、口縁部が外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。無調整。
1541	土師器 杯形土器	口縁部1/4破片 口 (12.6cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい赤褐5YR5/3	大きめの底部から、稜をもって直立に近く外反する体部に至る。口縁部はさらに外反して端部が内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1539	須恵器 高台付 皿形土器	口縁部1/4欠損 口 13.6cm 高 3.4cm 底 6.2cm	埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③灰白5Y7/1	体部がやや膨らみをもって開く。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。付高台。
1538	土師器 甕形土器	口縁部破片 口 (19.0cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	口縁部下位と上位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、上端指ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。
1537	土師器 甕形土器	口縁～体部中位1/2残存 口 (20.4cm)	北東隅 床面上4cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部が一旦、やや直立して上位で外反する。体部の膨らみは小さい。 外面 口縁部横ナデ。中位に一条の沈線が回る。体部上位横方向篋削り後、中位縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ後、縦方向指ナデ。

I区56号住居出土遺物観察表《石器》第44図・PL17

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 重 さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S159	砥石	11.6・8.0 6.9	粗粒輝石安山岩 550	南東隅 床面上4cm	大形の砥石の半欠品。4面ともに使用されているが、上面および左面には敲打痕が残る。
S160	円礫	7.9・7.4 2.6	頁岩 235	竈内	扁平な小形の円礫。顕著な使用痕は認められないが、縁に敲打痕のような痕跡がある。完存。

I区59号住居出土遺物観察表《土器》第46図・PL18

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1549	土師器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口 (13.2cm) 高 3.9cm	南壁 床面上3cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい赤褐5YR5/4	大きめの平底から、直立に近く外反する体部に至る。口縁部はさらに外反してから内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。

2. 歴史時代後半期の出土遺物

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1547	土師器 甕形土器	口縁～体部上位1/4残存 口 (20.6cm)	竈左前 床面上直上	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5YR6/4	丸みのある体部から直立して、上方で短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。
1546	土師器 甕形土器	口縁～体部中位1/4残存 口 (21.0cm)	竈左前 床面上直上	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	丸みのある体部から直立して、上方に短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上半横方向篋ナデ後、下半縦方向篋ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向丁寧な篋ナデ。
1548	土師器 甕形土器	頸部1/4～底部残存 底 4.4cm 最 (10.4cm)	南壁 床面上 3cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい褐7.5YR5/4	胴部の膨らみが小さく、口縁部下位の屈曲が弱くなっている。 外面 口縁部横ナデ。体部上位斜方向篋ナデ後、下半縦方向篋ナデ。底部篋ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部横方向篋ナデ。

I 区62号住居出土遺物観察表《土器》第47図・PL18

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1275	土師器 杯形土器	口縁・底部一部欠損 口 (12.0cm) 高 3.0cm	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明褐7.5YR5/6	大きめの平底から、直立に近く外反する体部に至る。口縁部は外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部丁寧なナデ。底部篋ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1276	土師器 杯形土器	口縁～体部1/4欠損 口 (12.2cm) 高 2.6cm	南 床面上 3cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい褐7.5YR5/4	大きめの平底から、直立気味に外反する浅い体部に至る。口縁部は外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1277	土師器 杯形土器	口縁～底部1/4残存 口 (12.4cm) 高 3.1cm	南壁隅 床面上21.5cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙5YR6/4	大きめの平底から、稜をもって直立に近く外反する体部に至る。口縁部は内湾する。 外面 口縁部横ナデ。体部丁寧なナデ。底部篋ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1278	土師器 杯形土器	完形 口 11.8cm 高 3.3cm	南壁隅 床面上10cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい褐7.5YR5/4	やや膨らんだ平底から、鋭い稜をもって体部に至る。体部はやや膨らみをもって外反し、口縁部は内湾する。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1280	須恵器 杯形土器	ほぼ完形 口 12.2cm 高 3.7cm 底 7.0cm	南 床面上2.5cm	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰白2.5Y8/1	体部中位に膨らみをもつ。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1279	土師器 甕形土器	口縁部破片 口 (18.7cm)	埋没土	①細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙7.5YR6/6	膨らみのない胴部から、短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部縦方向篋ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部ナデ。

I 区62号住居出土遺物観察表《石器》第47図・PL18

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石重 材重 (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S130	紡錘車	上径 3.8 下径 3.8 厚さ 1.9	蛇紋岩(滑石質) 44.6	埋没土	台形の紡錘車。上面・下面の縁は丸くなっている。側面には、使用時の擦痕とみられる横方向の細い刻線がある。完形。

I 区67号住居出土遺物観察表《土器》第49図・PL19

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1554	須恵器 高台付 椀形土器	口縁～体部下位1/4欠損 口 13.2cm 高 5.0cm 底 6.3cm	埋没土	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③灰黄2.5Y7/2	小さな底部から、直線的な体部に至り、断面台形の低い高台が付く。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1550	土師器 甕形土器	口縁～体部下位破片 口 (20.0cm)	竈内 使用面下11cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③浅黄褐10YR8/3	器肉が厚く、口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部下位縦方向篋ナデ後、上位横方向篋ナデ。 内面 体部横方向篋ナデ。
1553	土師器 甕形土器	口縁～体部上位1/4残存 口 (19.0cm)	埋没土	①細砂・小礫を含む。 ②酸化焰。 ③橙7.5YR7/6	器肉が厚く、口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ後、下半縦方向篋ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。
1552	土師器 甕形土器	口縁～底部1/4残存 口 (19.3cm) 高 23.6cm 底 (5.6cm)	埋没土	①細砂・小礫を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙7.5YR7/6	器肉が厚く、口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ、下半縦方向篋ナデ後、上半縦方向篋ナデ。底部篋ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部木端状工具による横方向篋ナデ。
1551	土師器 甕形土器	口縁～体部中位1/4残存 口 (19.0cm)	貯蔵穴 底面直上	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙7.5YR6/6	体部の膨らみが小さく、口縁部下位と上位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。中央部に帯状の無調整部がある。体部上位斜方向篋ナデ後、下半縦方向篋ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。

遺物観察表

I区67号住居出土遺物観察表《石器》第49図・PL19

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重 さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S162	敲石	7.4・7.0 2.8	粗粒輝石安山岩 230	埋没土	扁平な石の小口の一端に敲打痕が残る。半欠。
S161	砥石	4.3・2.8 0.7	砥沢石 15.7	埋没土	小形の砥石。先端部が欠損しているが、やや広がる形態と考えられる。完存端には直径8mmの孔が、両端から穿たれて貫通している。

I区73号住居出土遺物観察表《土器》第50図・PL19

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1567	土師器 甕形土器	口縁～体部下位残存 口 19.6cm	南壁 床面上6cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	丸みのある体部から直立して、上位が短く外反する。 外面 口縁部横ナデ。中央部帯状に無調整部分が残る。体部中位斜方向 篋削り後、上位横方向篋削り。下位縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。
1555	須恵器 高台付 椀形土器	口縁～体部下位1/2残存 口 (12.2cm) 高 4.8cm 底 (6.0cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙2.5YR6/4	わずかな丸みをもって、大きく外反する体部。やや小形。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。

I区74号住居出土遺物観察表《土器》第51図・PL20

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1557	土師器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口 (12.0cm) 高 3.3cm 底 8.0cm	南西隅 床面上11cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	大きめの平底から、鋭い稜をもって外反する体部に至る。口縁部は外反 する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1558	須恵器 杯形土器	口縁部1/4欠損 口 13.8cm 高 4.0cm 底 6.2cm	北東寄り 床面上2cm	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰白10Y8/1	体部がやや深く、底径が小さい。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1559	黒色土器 高台付 椀形土器	口縁～高台部1/2残存 口 (15.3cm) 高 5.7cm 底 6.5cm	北東寄り 床面上10.5cm	①細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい黄橙10YR7/3	小さな底部から、大きく外反する体部に至る。口縁部は外反する。付高 台。外面に「平」墨書。外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ調整。底 部回転糸切り。無調整。高台接合部ナデ調整。 内面 口縁部～体部～底部横方向細かい篋磨き。黒色処理。
1556	土師器 甕形土器	口縁～体部下位残存 口 19.8cm	南東寄り 床面上11cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙5Y6/6	口縁部が一旦直立して、上位で外反する。体部上位に最大径をもつ。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、下半縦方向篋削り。下 半には指ナデ痕が残る。内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。

I区5号土坑出土遺物観察表《土器》第52図・PL21

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1560	須恵器 杯形土器	口縁～体部下位1/4欠損 口 12.7cm 高 3.7cm 底 5.3cm	南東 床面上5cm	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y6/1	底径が小さく、やや内湾する小形の浅い体部から、肥厚する口唇部に至 る。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1561	須恵器 杯形土器	口縁～体部下位1/2欠損 口 (12.3cm) 高 3.5cm 底 5.4cm	南東 床面上5cm	①細砂を少量含む。 ②還元焰。 ③灰7.5Y6/1	底径が小さく、口縁部が外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。

I区39号土坑出土遺物観察表《土器》第53図・PL21

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1568	土師器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口 (12.1cm) 高 3.8cm 底 (6.0cm)	埋没土	①微細砂・赤色鉱物粒を含。 ②酸化焰。 ③にぶい黄橙10YR7/4	小さめの平底から、大きく外反する体部に至る。口縁部は外反しやや肥 厚する。 外面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り後、上部のみ指ナデ。底部篋削 り。内面 口縁部横ナデ。一部に煤付着。体部～底部丁寧なナデ。

I区10号土坑出土遺物観察表《土器》第54図・PL21

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1562	須恵器 杯形土器	口縁～体部1/2欠損 口 14.2cm 高 4.2cm 底 6.2cm	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③浅黄2.5Y7/3	底径が小さく、やや深めの体部から、外反する口縁部に至る。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1563	須恵器 高台付 椀形土器	底部残存 底 7.2cm	埋没土	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③黄灰2.5Y6/1	体部が直線的に外反し、断面方形の開いた高台を付す。 内外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1564	須恵器 高台付 椀形土器	底部破片・高台部欠損	埋没土	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③黄灰2.5Y7/2	丸みをもった体部。付高台。 外面 底部回転糸切り後、付高台。 内面 底部丁寧なナデ後、井桁状のマークが刻まれている。

2. 歴史時代後半期の出土遺物

2区2号住居出土遺物観察表《土器》第56図

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1572	須恵器* 高台付 椀形土器	体部下位～高台部破片 底(8.0cm)	竈内 使用面直上	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい黄橙10YR7/4	直線的な体部に、細く高い高台を付す。 内外面 体部回転ナデ。底部切り離し技法不明。付高台。
1571	土師器 甕形土器	口縁部破片 口(20.0cm)	東壁内 床面上3.5cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	器肉が厚く、くずれた「コ」の字状の口縁部を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部斜方向篋削り。上端指ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。
1570	土師器 甕形土器	口縁部破片 口(21.0cm)	竈内 使用面直上	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。

2区5号住居出土遺物観察表《土器》第58図・PL22

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1574	土師器 杯形土器	口縁部残存 口(12.6cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい褐7.5YR6/3	大きめの平底から、稜をもって直立に近く外反する体部に至る。口縁部は内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1573	須恵器 高台付 杯形土器	口縁～底部残存 口(17.5cm) 高 5.0cm 底(12.6cm)	埋没土	①微細砂・細砂を多く含む。 ②還元焰。 ③灰褐5YR4/2	平底の底部から直線的に外反し、内端が接地する断面台形の高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部切り離し後、回転篋削り。付高台。

2区5号住居出土遺物観察表《石器》第58図・PL22

番号	器種	長さ・幅 厚さ(cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S163	棒状礫	13.7・5.9 3.9	粗粒輝石安山岩 540	埋没土	顕著な使用痕は認められないが、何らかの使用目的のために、住居内に持ちこまれたと考えられる。
S166	磨石	13.0・7.2 3.2	粗粒輝石安山岩 400	埋没土	上面に磨り面を残す。完存。
S167	磨石 敲石	11.7・7.7 3.45	閃緑岩 520	埋没土	扁平な石の両端が凹む分銅形。上面のほぼ全面に磨り面が残し、小石の一端に敲打痕が並ぶ。完形。
S168	磨石 敲石	12.0・6.3 3.6	粗粒輝石安山岩 400	埋没土	上面に磨り面、小口の一面に敲打痕が残る。完存。
S164	磨石	14.2・9.0 6.6	粗粒輝石安山岩 129	埋没土	下面に広い磨り面が残る。上面の丸い稜の両側は黒く変色しており、床面に埋めて磨り面を使用した可能性もある。
S165	敲石	13.3・14.6 3.95	石英閃緑岩 1320	埋没土	扁平な円礫の一面面に敲打痕が残る。上・下面とも平滑面があるが、磨った痕跡は認められない。完存。

2区8号住居出土遺物観察表《土器》第60図・PL23

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1575	灰釉陶器 高台付 椀形土器	口縁～底部残存 口 14.4cm 高 4.4cm 底 6.6cm	南西壁際 床面上3cm	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰白5Y7/1	中位に段をもつ体部から、直線的に外反する口縁部に至る。三日月形の高台を付す。刷け塗り施釉。外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。刷け塗り施釉。底部回転ナデ調整。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部回転ナデ調整。
1576	須恵器 高台付 椀形土器	口縁～体部破片 口(17.0cm)	南西隅 床面直上	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい黄橙10YR7/2	高台部付近から、直線的に開く体部。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。
1577	緑釉陶器 高台付 皿形土器	口縁～高台部残存 口(14.0cm) 高 3.1cm 底 6.0cm	北東隅 床面上2cm	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③褐灰10YR6/1	わずかな丸みをもつ体部から、外反する口縁部に至る。口縁部に、こぶ状の突起をつくっている。内外面、施釉。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部ナデ調整。
1580	須恵器 羽釜	口縁部破片 口(23.6cm)	埋没土	①微細砂・砂粒を多く含む。 ②還元焰。 ③灰白2.5Y7/1	内湾する羽釜の口縁部。端部は厚く肥厚する。 内外面 口縁部横ナデ。

2区8号住居出土遺物観察表《石器》第60図・PL23

番号	器種	長さ・幅 厚さ(cm)	石 材 重さ(g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S169	磨石 敲石	22.0・7.8 4.5	閃緑岩 1190	北東隅 床面下6cm	やや巾が広く扁平な礫。上面には、顕著で広い磨り面が残し、下端および両側縁に敲打痕がある。完存。
S170	磨石	9.5・7.2 3.8	粗粒輝石安山岩 400	北壁際 床面下2cm	上面および下面の中央に、帯状に磨り面が残る。一部に炭化物付着。欠損面も黒く変色している。半欠。
S171	敲石	9.7・8.1 3.4	粗粒輝石安山岩 360	埋没土	右側面に敲打痕を残す。扁平な円礫。完存。

遺物観察表

2区9号住居出土遺物観察表《土器》第61図

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1582	須恵器 杯形土器	底部残存 底 6.5cm	埋没土	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰黄2.5Y7/2	体部下位に丸みをもって、口縁部が小さく外反する。 内外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1581	須恵器 高台付 椀形土器	口縁～底部 $\frac{1}{4}$ 残存 口 (15.0cm) 高 5.6cm 底 7.4cm	竈煙道部 床面直上	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	わずかな丸みをもって、大きく外反する体部。低い高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。

2区13号住居出土遺物観察表《土器》第62図

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1586	土師器 台付 甕形土器	口縁～体部上位破片 口 (12.2cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③暗褐10YR3/4	体部の膨らみが小さく、口縁部下位と上位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位斜方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向ナデ。

2区13号住居出土遺物観察表《石器》第62図・PL24

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石重 材重 (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S172	砥石	7.5・4.9 3.2	砥沢石 172.1	貯蔵穴内 底面上3.5cm	半欠の砥石。上面および二側面が使用されている。下面には、細い刻線が多数残る。

2区14号住居出土遺物観察表《土器》第64図・PL25

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1589	須恵器 円盤形 土器	完形 長 4.6cm 幅 4.6cm 厚 1.1cm	北西壁寄り 床面直上	①細砂・白色鉾物粒を多く含 ②還元焰。 ③灰10Y4/1	須恵器の大甕を割ってつくったとみられる土製円盤。
1590	須恵器 円盤形 土器	完形 長 6.0cm 幅 6.2cm 厚 1.2cm	北西壁寄り 床面直上	①細砂・白色鉾物粒を多く含 ②還元焰。 ③灰N4/	須恵器の大甕を割ってつくったとみられる土製円盤。
1591	須恵器 円盤形 土器	完形 長 6.5cm 幅 7.0cm 厚 1.3cm	北西壁寄り 床面直上	①砂粒・白色鉾物粒を多く含 ②還元焰。 ③灰N4/	須恵器の大甕を割ってつくったとみられる土製円盤。
1587	土師器 甕形土器	口縁～体部中位残存 口 19.9cm	中央竈寄り 床面上3.5cm	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5YR7/4	丸みのある体部から直立して、上位で短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。下半縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。
1588	土師器 甕形土器	口縁～体部下位 $\frac{2}{3}$ 残存 口 18.9cm	竈内 使用面直上	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	口縁部が一旦直立して上位で外反する。体部上位に最大径をもつ。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。下位縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。

2区14号住居出土遺物観察表《石器》第64図・PL25

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石重 材重 (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S174	砥石	5.6・2.8 3.0	砥沢石 50.8	埋没土	断面三角形に使いこまれた砥石。先端部のみ残存。
S173	砥石	25.5・10.0 11.7	粗粒輝石安山岩 1370	北壁寄り 床面上1.5cm	大形の砥石。四側面とも使用しているが、うち3面には、巾2～4cmほどの帯状の曲面が確認できる。欠損端に近い部分には、4面のうち3面に敲打痕状の凹みが多数あり、角も欠けている。端部欠損。

2区15号住居出土遺物観察表《土器》第65図・PL26

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1594	灰釉陶器 高台付 椀形土器	体部下位～高台部残存 底 7.2cm	北西隅 床面上5.5cm	①微細砂と少量の小礫を含。 ②還元焰。 ③灰白5Y8/1	下位がややへこんだ体部。丸い三日月形の高台を付す。漬け掛け施釉。 外面 体部回転ナデ。底部回転篋切り。無調整。高台接合部回転ナデ。
1592	灰釉陶器 高台付 椀形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (16.3cm) 高 5.8cm 底 7.8cm	西壁際 床面上4cm	①黒色鉾物粒を多く含む。小 礫も混じっている。 ②還元焰。 ③灰白5Y8/1	体部にわずかな丸みをもって、口縁部が小さく外反し、三日月状の高台を付す。外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。漬け掛けによる施釉。 底部右回転篋削り。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。漬け掛け施釉。底部回転ナデ調整。
1595	緑釉陶器 椀形土器	体部破片	中央部 床面直上	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③褐灰10YR5/1	内外面 緑釉施釉。
1593	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (11.0cm) 高 3.7cm	北西隅 床面上5.5cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	尖り気味の丸底から、口縁部は内湾する。 外面 口縁部横ナデ。体部～底部篋削り。口縁部下は指ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。

2. 歴史時代後半期の出土遺物

2区15号住居出土遺物観察表《石器》第65図・PL26

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 重 さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S175	磨石	6.5・6.8 2.8	軽石 49.9	埋没土	下面に顕著な磨り面がみられる。完存。

2区16号住居出土遺物観察表《土器》第66図・PL26

番号	器種	残法	存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1597	土師器 杯形土器	口縁部1/2欠損 口 (13.0cm) 高	3.1cm	北東部 床面上8.5cm	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	大きめの平底から、直立に近く外反する体部に至る。口縁部は外反する。外面 口縁部横ナデ。体部指押さえ、指ナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向ナデ。底部指ナデ。
1598	土師器 杯形土器	口縁～底部破片 口 (12.5cm) 高	4.0cm	埋没土	①微細砂を少量含む。 ②酸化焰。 ③にぶい赤褐5YR5/4	大きめの平底から、膨らみをもって外反する深めの体部に至る。口縁部はやや内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ、指押さえ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1599	土師器 杯形土器	口縁～底部破片 口 (13.0cm)		埋没土	①夾雑物の少ない緻密な胎土 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	平底からやや膨らみをもって外反する体部に至る。口縁部は直立気味に外反するが端部はやや外湾する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ後、横方向細い篋磨き。底部篋ナデ。内面 口縁部横ナデ。体部ナデ後、放射状磨き。底部ナデ。
1596	須恵器 甕形土器	口縁部破片 口 (45.0cm)		北東隅 床面上5.5cm	①微細砂を含む。白色鉱物粒を多く含む。②還元焰。 ③暗灰N3/	大きく外反する甕形土器の口縁部破片。口縁部外面端部は鋭く垂下する。外面 口縁部横ナデ。2条の波状文が施されている。内面 口縁部横ナデ。

2区16号住居出土遺物観察表《金属器》第66図

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	材 質	出土位置	形状・調整加工の特徴
M13	刀子	8.1・1.2 0.4	鉄	埋没土	細身の刀子の刃部破片。刃部1/2残存。

2区18号住居出土遺物観察表《土器》第67図

番号	器種	残法	存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1600	土師器 甕形土器	口縁～体部中位1/2残存 口 (18.0cm)		埋没土	①微細砂を少量含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/6	丸みをもつ胴部上位から直立して短く外反する「コ」の字状の口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、下半縦方向篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。

2区18号住居出土遺物観察表《石器》第67図・PL26

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 重 さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S176	砥石	5.5・6.1 4.9	粗粒輝石安山岩 198.3	埋没土	側面の4面が使用された大形砥石の破片。両端が欠損している。

2区25号住居出土遺物観察表《土器》第69図・PL27

番号	器種	残法	存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1601	土師器 甕形土器	口縁～体部下位1/2残存 口 (21.0cm)		埋没土	①微細砂・細砂を多く含む。 ②還元焰。 ③にぶい褐7.5YR5/3	器肉が厚く、口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。外面 口縁部横ナデ。体部上半横方向篋削り後、下半縦方向篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向丁寧な篋ナデ。
1602	土師器 甕形土器	体部中位～底部残存 底 (5.4cm)		埋没土	①微細砂・細砂を多く含む。 ②還元焰。 ③明褐7.5YR5/8	膨らみの少ない体部から、小さな砂底の底部に至る。外面 体部下半縦方向篋削り。底部砂底。内面 体部下半横方向篋ナデ。底部篋ナデ。

2区27号住居出土遺物観察表《土器》第71図・PL27

番号	器種	残法	存 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1603	須恵器 杯形土器	ほぼ完形 口 12.0cm 高	3.8cm	南東 床面直上	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰白2.5GY8/1	底径が小さく、小形になる。内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1604	灰釉陶器 椀形土器	口縁～体部下位破片 口 (13.0cm)		埋没土	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y6/1	体部にわずかな膨らみをもって、口縁部が小さく外反する。潰け掛け施釉。内外面 口縁部～体部回転ナデ。

2区27号住居出土遺物観察表《石器》第71図・PL27

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 重 さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S177	凹み石	7.9・7.1 4.4	粗粒輝石安山岩 320	埋没土	上面および下面、さらに右側面に2カ所ずつの凹みがある。摩擦痕による凹みとみられる。
S120	紡錘車	上径 1.2 下径 1.7	滑石 5.9	埋没土	台形の紡錘車の上半部破片。穿孔はやや中心からずれた位置にあり、上面を水平とするとやや斜方向である。側面には細い線刻による、斜線の文様が付されている。

遺物観察表

2区29号住居出土遺物観察表《土器》第72図・PL29

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1610	黒色土器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 12.4cm 高 4.2cm 底 6.1cm	竈左前方 床面上20cm	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい黄橙10YR6/3	平底から、膨らみをもって外反する体部に至る。口縁部は外反する。外面 口縁部横ナデ。端部に煤付着。体部回転ナデ調整。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部横方向篋磨き。黒色処理されていたとみられるが部分的に色がぬけている。
1606	須恵器* 杯形土器	口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 欠損 口 (12.0cm) 高 4.6cm 底 (6.0cm)	北部 床面上19cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③浅黄橙10YR8/3	小さめの平底からやや膨らんで、外反する口縁部に至る。やや深めの杯。外面に「休？」墨書。外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部左回転糸切り。無調整。内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。
1615	須恵器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 欠損 口 12.9cm 高 4.1cm 底 6.2cm	埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい褐7.5YR5/4	底径が小さく、体部はやや深い。内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1607	須恵器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (12.6cm) 高 3.8cm 底 6.5cm	北部 床面上18cm	①細砂・小礫を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y6/1	底径がやや小さく、直線的でやや深い体部。内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1613	土師器 高台付 椀形土器	口縁・高台部一部欠損 口 14.2cm 高 5.2cm 底 (7.4cm)	竈内 使用面上6.5cm	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙7.5YR6/6	小さめの底部から、大きく外反する体部に至る。口縁部はやや外反する。断面台形のやや高い高台を付す。外面 口縁部横ナデ。体部斜方向篋削り後、上半部指ナデ。高台部接合部指ナデ。底部砂底。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1609	須恵器* 高台付 椀形土器	口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損 口 13.4cm 高 5.1cm 底 7.7cm	竈左前方 床面上15cm	①微細砂・小礫を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙7.5YR6/6	体部がわずかな丸みをもって大きく外反する。三日月状の高台を付す。外面 口縁部～体部回転ナデ。底部切り離し後、何らかの篋調整を施し、付高台。
1608	灰釉陶器 高台付 椀形土器	口縁～高台部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (16.0cm) 高 5.8cm 底 8.0cm	北東 床面上4.5cm	①微細砂を少量含む。 ②還元焰。 ③灰白5Y7/1	中位のややへこんだ体部から、小さく外反する口縁部に至る。三日月形の高台を付す。漬け掛け施釉。外面 口縁部横ナデ。体部上半回転ナデ。下半右回転篋削り。底部回転ナデ。付高台。内面 口縁部横ナデ。体部～底部回転ナデ調整。
1614	土師器 甕形土器	口縁～体部上位 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (20.0cm)	埋没土	①細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	器肉が厚く、やや体部に膨らみをもつ。口縁部がくずれた「コ」の字を呈する。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。

2区35号住居出土遺物観察表《土器》第73図

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1617	土師器 甕形土器	口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (20.6cm)	竈内 使用面上7cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③灰黄褐10YR5/2	丸みをもつ胴部上位から直立して、上位が短く外反する口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。
1616	土師器 甕形土器	口縁～体部中位 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (19.4cm)	竈左前 床面直上	①微細砂・赤色鉱物粒を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	丸みのある体部から直立して、短く外反する口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部上半横方向篋削り。下半縦方向篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。

2区40号住居出土遺物観察表《石器》第74図

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石重 材重 (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S179	磨石	4.2・4.1 1.6	粗粒輝石安山岩 40.4	埋没土	上面の一部に磨られたような平滑面が残る。半欠。
S178	敲石	11.5・6.3 2.4	粗粒輝石安山岩 310	埋没土	扁平な石の小口の側面に敲打痕が残る。完存。

2区42号住居出土遺物観察表《土器》第75図

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1619	土師器 杯形土器	口縁部破片 口 12.4cm	埋没土	①微細砂・褐色鉱物粒が目立つ。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	大きめの平底から、外反する体部に至る。口縁部と体部の間には段があり、口縁部は内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。内面 口縁部横ナデ。体部丁寧なナデ。
1620	須恵器 高台付 椀形土器	高台部 $\frac{1}{2}$ 残存 底 (10.2cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰黄2.5Y7/2	三日月状の高台。外面 底部回転糸切り後、周縁回転篋削り。付高台。内面 底部ナデ。

2区43号住居出土遺物観察表《土器》第76図・PL30

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1624	黒色土器 杯形土器	体部中位～底部 $\frac{1}{2}$ 残存 底 (6.1cm)	埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙7.5YR6/6	小さめの平底から、やや膨らみをもって外反する体部に至る。外面 体部横方向丁寧なナデ。底部篋ナデ。内面 体部～底部横方向の篋磨き。黒色処理。
1622	土師器 台付 甕形土器	口縁～体部中位 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (10.9cm)	東南 床面上11.5cm	①微細砂を少量含む。 ②酸化焰。 ③にぶい褐7.5YR5/4	体部の膨らみは残るが、口縁部上位・下位の屈曲は弱くなる。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向丁寧な篋ナデ。

2. 歴史時代後半期の出土遺物

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1623	土師器 台付 甕形土器	口縁～体部下位 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (13.6cm)	東南 床面直上	①微細砂を少量含む。 ②酸化焙。 ③にぶい赤褐5YR4/3	丸みをもつ体部から直立して、上位が短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。
1621	土師器 甕形土器	口縁部破片 口 (18.0cm)	竈内 使用面上19cm	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③赤褐2.5YR4/8	膨らみをもった体部から、外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。

2区43号住居出土遺物観察表《石器》第76図・PL30

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石重 材重 (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S180	敲石	16.2・4.3 4.4	粗粒輝石安山岩 570	埋没土	細い棒状礫の両端に敲打痕が残る。完存。

2区44号住居出土遺物観察表《土器》第77図・PL30

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1627	須恵器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (13.0cm) 高 3.9cm 底 (6.6cm)	埋没土	①微細砂と少量の小礫を含。 ②酸化焙。 ③灰黄褐10YR6/2	底径が小さく、やや深い体部。口縁部は外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1626	須恵器 高台付 皿形土器	底部残存 底 6.8cm	竈内 使用面直上	①微細砂とわずかな小礫を含 む。②酸化焙。 ③橙7.5YR6/6	扁平な体部で、開いた高台を付す。 内外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1625	土師器 台付 甕形土器	口縁部破片 口 (14.0cm)	竈内 使用面上13cm	①微細砂を少量含む。 ②酸化焙。 ③にぶい赤褐5YR5/4	口縁部下位と上位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ

2区46号住居出土遺物観察表《土器》第79図・PL31

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1628	須恵器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{4}$ 残存 口 (12.2cm) 高 3.7cm 底 5.3cm	北壁際 床面上4.5cm	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焙。 ③灰黄2.5YR7/2	底径が小さく、小形化する。口縁部は外反し、端部はやや肥厚する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1634	須恵器 高台付 碗形土器	口縁～体部中位 $\frac{1}{4}$ 破片 口 (13.6cm)	竈内 使用面直上	①微細砂を含む。 ②還元焙。 ③灰白5Y7/1	体部にわずかな丸みをもって、大きく口縁部が外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。
1636	灰釉陶器 碗形土器	口縁～体部下位破片 口 (14.8cm)	南壁際 床面上4.5cm	①黒色鉱物微細砂を含む。 ②還元焙。 ③灰5Y6/1	中位がややへこんだ体部から、小さく外反する口縁部に至る。漬け掛け 施釉。外面 口縁部横ナデ。体部下位回転篋削り。 内面 口縁部～体部回転ナデ。
1631	須恵器* 高台付 碗形土器	体部下位～高台部残存 底 (6.8cm)	北壁寄り 床面上2cm	①細砂を含む。 ②酸化焙。 ③にぶい黄橙10YR6/3	小形で体部が丸みをもち、細く高い高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1632	須恵器* 高台付 碗形土器	口縁部一部欠損 口 14.1cm 高 5.8cm 底 7.7cm	竈左袖前 床面上6.5cm	①細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③橙7.5YR6/6	下位にわずかな丸みをもって、直線的に外反する体部。うすく高い高台 を付す。外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ調整。底部回転糸切り難 し。付高台。内面 口縁部横ナデ。体部～底部回転ナデ調整。
1633	須恵器* 高台付 碗形土器	口縁～底部 $\frac{1}{4}$ 破片 高台部欠損 口 (15.8cm)	竈内 使用面上3.5 cm	①微細砂を多く含む。 ②還元焙。 ③明褐7.5YR5/6	やや大形で、体部に丸みをもち、口縁部が外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1635	須恵器 高台付 碗形土器	口縁～高台部 $\frac{1}{2}$ 破片 口 (12.6cm) 高 5.1cm 底 (5.8cm)	竈内 使用面直上	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焙。 ③橙7.5YR6/6	体部がわずかな丸みをもって、大きく外反する。断面方形の低い高台を 付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部付高台。
1637	須恵器* 高台付 碗形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (14.0cm) 高 6.1cm 底 7.0cm	南東隅 床面上7cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR6/8	体部が直線に外反する。やや高く開いた高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。付高台。
1639	須恵器* 高台付 碗形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 13.3cm 高 5.2cm 底 (7.4cm)	埋没土	①細砂と少量の小礫を含む。 ②酸化焙。 ③黒褐10YR3/1	体部がわずかな丸みをもって、大きく外反する。端部の丸い高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1630	土師器 甕形土器	口縁部破片 口 (20.6cm)	竈内 使用面上3.5 cm	①細砂を含む。 ②酸化焙。 ③にぶい黄橙7.5YR7/4	器肉が厚く、体部に膨らみをもって短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、上端指ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向ハケメ後、一部ナデ。
1629	土師器 甕形土器	口縁～体部中位破片 口 (21.4cm)	南東隅 床面上7.5cm	①微細砂・小礫を含む。 ②酸化焙。 ③橙7.5YR6/6	器肉が厚く、胴部に膨らみをもって短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。上端指ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。
1638	灰釉陶器 壺形土器	体部中位破片	東壁寄り 床面直上	①微細砂を含む。 ②還元焙。 ③灰白10YR7/1	肩の張る体部上位破片。肩部上位の一条の細い沈線文が施されている。 外面 体部丁寧になでられ、全面に施釉。 内面 体部回転ナデ調整。肩部下位に釉が塗られている。

遺物観察表

2区51号住居出土遺物観察表《土器》第81図・PL31

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1643	黒色土器 高台付 椀形土器	体部下位～高台部残存 底(7.0cm)	中央やや西南 寄り 床面直上	①微細砂・赤色鉱物粒を少量 含む。②酸化焙。 ③橙7.5YR7/6	体部に丸みもち、開いた高台を付す。 内外面 体部回転ナデ。内面に黒色処理。底部回転糸切り。無調整。付 高台。
1641	黒色土器 高台付 椀形土器	口縁～高台部1/2欠損 口(14.6cm)高 6.2cm 底(7.8cm)	北東隅 床面直上	①金雲母細片・橙色鉱物粒を 多く含む。②酸化焙。 ③にぶい褐7.5YR6/4	体部にゆるい丸みもち、ハの字に開く高い高台を付す。 外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部回転糸切り無調整か?付高台。 内面 口縁部横ナデ。体部黒色処理。横方向細かい筥磨き。底部荒い一 方向の筥磨き。
1642	灰釉陶器 高台付 椀形土器	口縁～高台部1/2残存 口 14.2cm 高 5.2cm 底 7.3cm	東壁際 床面上2cm	①少量の小礫・砂粒を含む。 ②還元焙。 ③灰白7.5Y7/1	体部に丸みをもって、外反する口縁部に至る。三日月形の高台を付す。 濱け掛け施釉。外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。下位回転筥削り。 底部切り離し後、付高台ナデ調整。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部回転ナデ調整。
1870	須恵器 高台付 椀形土器	底部破片	埋没土	①微細砂を含む。 ②還元焙。 ③灰白2.5Y7/1	底部内面に「中」の墨書。 外面 体部回転ナデ調整。底部回転糸切り離し。高台接合部ナデ調整。 内面 体部回転ナデ調整。
1640	土師器 甕形土器	口縁～胴部中位1/4残存 口(21.3cm)	竈内 使用面上2cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐5YR5/6	器内が厚く、口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。口縁外面端部は 肥厚する。外面 口縁部横ナデ。体部斜方向筥削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向筥ナデ。

2区51号住居出土遺物観察表《石器》第81図・PL31

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石重 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S184	扁平礫	8.2・8.8 1.8	灰色安山岩 220	南壁寄り 床面直上	扁平な小形の礫。顕著な使用痕は認められないが、下端小口に打痕状の擦痕がある。何ら かの意図で、住居内に持ち込まれたものと考えられる。
S183	敲石	12.9・6.4 5.7	粗粒輝石安山岩 690	南壁際 床面直上	やや太い棒状礫。小口の一端に敲打痕が残る。完存。
S182	磨石 敲石	11.5・10.5 3.9	かこう岩 720	東壁寄り 床面直上	扁平な大形の円礫。やや薄くなった一端に敲打痕が残る。表面に方形に磨り面が残る。完 存。
S185	円礫	8.7・9.3 7.4	溶結凝灰岩 865	南壁際 床面上1.5cm	顕著な使用痕はないが、部分的に平滑面や稜があり、何らかの目的で住居内に持ちこま れたと考えられる。半欠。

2区58号住居出土遺物観察表《土器》第82図

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1644	土師器 甕形土器	口縁～体部上位破片 口(21.0cm)	竈前 床面直上	①微細砂を少量含む。 ②酸化焙。 ③褐10YR4/4	体部の膨らみが小さく、口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位斜方向筥削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向筥ナデ。

2区66号住居出土遺物観察表《土器》第83図・PL33

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1297	土師器 杯形土器	口縁部一部欠損 口(12.0cm)高 3.6cm 底 7.8cm	南部 床面上16.5cm	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐2.5YR5/6	平底から、やや膨らみをもって外反する浅い体部に至る。口縁部はさら に外反し、端部は内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部 筥削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1298	土師器 杯形土器	口縁～底部1/4残存 口(11.8cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③にぶい褐7.5YR5/4	尖り気味の丸底から、口縁部は短く内傾する。 外面 口縁部横ナデ。体部～底部横方向筥削り後、口縁部下位指ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1301	土師器 杯形土器	口縁～底部1/4残存 口(12.6cm)	埋没土	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR6/6	丸底から口縁部がやや内傾する。 外面 口縁部横ナデ。体部～底部横方向筥削り後、口縁部下位筥ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1303	須恵器 高台付 杯形土器	口縁～底部破片 口(13.0cm)高 4.4cm 底(9.0cm)	埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焙。 ③灰7.5Y5/	平底の底部から直線的に外反し、断面台形の高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転筥削り。
1302	須恵器 高台付 椀形土器	底部残存 底 8.0cm	南 床面上13cm	①細砂・小礫を含む。 ②還元焙。 ③灰白10Y8/1	小さな底部から直線的に外反し、開いた細い高台を付す。 外面 底部回転糸切り。付高台。
1299	土師器 盤形土器	口縁～底部1/4残存 口(16.0cm)高 3.6cm	埋没土	①細砂・小礫を含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR6/8	体部の弱い稜線から、外湾する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。底部筥削り。 内面 口縁部横ナデ。底部丁寧なナデ。
1300	土師器 盤形土器	口縁部破片 口(18.0cm)	埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐5YR5/8	平底気味の底部から、外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。底部筥削り。 内面 口縁部横ナデ。底部丁寧なナデ。
1295	土師器 甕形土器	口縁～体部下位残存 口(20.5cm)	中央部 床面上9cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐2.5YR5/6	体部の膨らみは小さくなり、口縁部上位・下位の屈曲も弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横・斜方向筥削り。中位縦方向筥削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向筥ナデ。
1296	土師器 甕形土器	口縁～体部1/2残存 口(19.6cm)	埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐2.5YR5/6	体部の膨らみは小さく、口縁部上位・下位の屈曲も弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向筥削り。中位縦方向筥削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向筥ナデ。

2. 歴史時代後半期の出土遺物

2区61号住居出土遺物観察表《土器》第84図・PL32

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1646	土師器 甕形土器	口縁～体部上位破片 口 (16.0cm)	中央部 床面上11cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	口縁部が一旦直立して上位で外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。
1645	土師器 甕形土器	口縁～体部下位1/2残存 口 19.0cm	竈左前方 床面上16cm	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	体部の膨らみがやや小さく、口縁部上位と下位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横・斜方向篋削り後、下位縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。

2区70号住居出土遺物観察表《土器》第85図

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1648	土師器 杯形土器	口縁1/4～底部残存 口 (13.0cm) 高 3.4cm 底 (9.2cm)	埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	やや膨らんだ大きめの平底から、鋭い稜をもって体部に至る。体部はやや膨らみをもって外反する。口縁端部はやや内湾。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1649	緑釉陶器 碗形土器	口縁～体部上位破片 口 (14.0cm)	埋没土	①黒色鉱物微細粒を含む。 ②還元焰。 ③灰白5Y8/1	やや丸みのある体部から、大きく外反する口縁部に至る。内面のみ緑釉を刷毛塗り施釉。 内外面 口縁部回転ナデ。
1647	須恵器 杯形土器	口縁～底部1/4残存 口 (14.2cm) 高 3.9cm 底 (8.0cm)	埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③褐灰10YR5/1	体部中位に膨らみをもつ。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。

2区71号住居出土遺物観察表《土器》第86図・PL34

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1650	須恵器 高台付 碗形土器	口縁部1/2・高台部欠損 口 14.0cm	竈左袖脇 床面上2.5cm	①細砂・小礫を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい黄橙10YR7/3	丸みをもつ、やや大形の体部。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。付高台。

2区72号住居出土遺物観察表《土器》第87図・PL34

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1652	須恵器 高台付 碗形土器	高台部残存 底 7.6cm	竈内 使用面上9cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③褐7.5YR4/4	うすく開いた高台部。 内外面 高台部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1651	土師器 台付 甕形土器	口縁～底部一部欠損・ 台部欠損 口 12.4cm	中央南東寄り 床面上2.5cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③黒褐10YR3/1	丸みのある体部から直立して、上方で短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。下半縦方向篋削り。底部接合部ナデ調整。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。底部接合部ナデ調整。

2区74号住居出土遺物観察表《土器》第88図・PL34

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1657	灰釉陶器 高台付 皿形土器	口縁～高台部破片 口 (12.4cm) 高 2.2cm 底 (7.2cm)	埋没土	①白色鉱物微細粒を含む。 ②還元焰。 ③灰白5Y7/1	中位にかすかな段をもつ体部から、小さく外反する口縁部に至る。断面台形の高台を付す。漬け掛け施釉。内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り離し。高台接合部ナデ調整。
1656	灰釉陶器 碗形土器	口縁～体部下位破片 口 (13.0cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰白5Y7/1	中位のややへこんだ体部から小さく外反する口縁部に至る。漬け掛け施釉。外面 口縁部横ナデ。体部上半回転ナデ。下半右回転篋削り。 内面 体部回転ナデ。
1658	灰釉陶器 碗形土器	口縁～体部破片 口 (12.2cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰白5Y7/1	体部にわずかな膨らみをもって口縁部が小さく外反する。漬け掛け施釉。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。
1655	灰釉陶器 高台付 碗形土器	口縁～高台部1/2残存 口 (13.6cm) 高 4.5cm 底 (6.0cm)	埋没土	①少量の小礫と微細砂を含。 ②還元焰。 ③灰白N8/	体部にわずかな丸みをもって口縁部が大きく外反し、三日月状の高台を付す。浅い碗。 外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。漬け掛け施釉。底部不明。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。漬け掛け施釉。底部回転ナデ調整。
1653	土師器 甕形土器	体部中位～底部1/2残存 底 (4.4cm)	中央北寄り 床面上17.5cm	①細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	小さな平底から、膨らみのある体部に至る。 外面 体部縦・斜方向篋削り。底部砂底。 内面 体部～底部横方向篋ナデ。
1654	土師器 甕形土器	口縁～体部下位1/2残存 口 (19.4cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	器肉が厚く、体部に膨らみをもって短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、部分的に指ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部上位丁寧なナデ。下半横方向篋ナデ。

遺物観察表

2区75号住居出土遺物観察表《土器》第90図・PL35

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1305	土師器 杯形土器	完形 口 12.0cm 高 3.3cm 底 9.1cm		竈内 使用面上 3cm	①微細砂を含む。白色鉱物粒が目立つ。②酸化焰。 ③にぶい褐7.5YR5/4	大きめの平底から、鋭い稜をもって外反する体部に至る。口縁部もやや外反する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1306	土師器 杯形土器	口縁部1/4欠損 口 11.6cm 高 3.2cm 底 8.1cm		南壁際 床面上 4cm	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明褐7.5YR5/6	平底から、やや膨らみをもって外反する浅い体部に至る。口縁部は内湾し内面端部は玉縁状。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1310	土師器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口 (12.0cm) 高 3.3cm 底 (8.4cm)		中央南寄り 床面上1.5cm	①微細砂を少量含む。 ②酸化焰。 ③にぶい黄褐10YR5/4	大きめの平底から、鋭い稜をもって外反する体部に至る。口縁部は外反する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1309	須恵器 杯形土器	口縁部1/4欠損 口 (13.6cm) 高 3.6cm 底 7.0cm		南東寄り 床面上 4cm	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y6/1	体部中位にわずかな膨らみをもって外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1307	須恵器 杯形土器	口縁部1/4欠損 口 13.3cm 高 3.6cm 底 7.4cm		北壁際 床面上 3cm	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③黄灰2.5Y5/1 にぶい赤褐5YR5/3	体部が直線的に外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1308	須恵器 杯形土器	口縁部一部欠損 口 12.7cm 高 3.4cm 底 7.0cm		東壁際 床面上5.5cm	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰N4/	体部が直線的に外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1311	須恵器 蓋形土器	天井～口縁部1/4破片 口 (21.0cm)		東壁際 床面上12.5cm	①微細砂を多く含む。 ②還元焰。 ③灰5Y6/1	水平な浅い体部から、垂直に折れる口縁部に至る。 内外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。

2区75号住居出土遺物観察表《石器》第90図・PL35

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S132	磨石	7.2・7.1 3.5	粗粒安山岩 215	埋没土	扁平な円盤。上面の中央部に磨り面が残る。1/4破片。

2区76号住居出土遺物観察表《土器》第91図・PL36

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1664	土師器 杯形土器	口縁～底部1/4破片 口 (11.2cm) 底 (6.0cm)		埋没土	①微細砂・細砂を少量含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	平底からやや膨らみをもって外反する体部に至る。口縁部は内湾する。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1662	灰釉陶器 高台付 椀形土器	口縁～底部1/2残存 口 (14.0cm) 高 4.2cm 底 (7.2cm)		南西隅 床面上 2cm	①夾雑物のほとんどない緻密な胎土。②還元焰。 ③灰白10Y8/1	底部から体部まで曲線的で断面台形の高台を付す。 外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。漬け掛け施釉。底部調整不明。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。漬け掛け施釉。底部回転ナデ。
1665	灰釉陶器 高台付 椀形土器	口縁～高台部破片 口 (17.4cm) 高 6.3cm 底 (8.4cm)		埋没土	①微細砂・黒色鉱物粒を含む。 ②還元焰。 ③灰7.5Y6/1	体部にわずかな丸みをもって、口縁部が小さく外反し、三日月状の高台を付す。外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。漬け掛け施釉。底部回転糸切り。無調整。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。漬け掛け施釉。底部回転ナデ調整。
1660	灰釉陶器 椀形土器	口縁～体部下位破片 口 (17.0cm)		北壁寄り 床面直上	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰黄2.5Y7/2	体部下位に丸みをもち、口縁部は小さく外反する。漬け掛け施釉。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。
1661	灰釉陶器 高台付 椀形土器	口縁～底部1/2残存 口 (13.6cm) 高 4.3cm 底 (7.3cm)		中央南西寄り 床面上 4cm	①微細砂を多く含む。 ②還元焰。 ③灰白2.5Y7/1	体部にわずかな丸みをもって、口縁部が小さく外反し、三日月形の高台を付す。漬け掛け施釉。 外面 口縁部横ナデ。体部右回転篋削り。底部回転篋削り(?)後、回転ナデ。内面 口縁部横ナデ。体部～底部回転ナデ調整。
1659	須恵器 羽釜	口縁～体部中位1/2残存 口 (19.8cm)		南壁寄り 床面直上	①細砂・小礫を含む。 ②酸化焰。 ③灰白2.5Y8/2	最大径を口縁部にもつ。口縁部はやや内湾する。 外面 口縁部回転ナデ。体部上半回転ナデ後、下位縦方向篋削り。 内面 口縁部回転ナデ。体部回転ナデ。
1663	土師器 甕形土器	口縁～体部上位破片 口 (20.0cm)		埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい黄橙10YR7/3	器肉が厚く、口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向ハケメ。

2区80号住居出土遺物観察表《土器》第92・93図・PL36

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1671	土師器 椀形土器	口縁～底部1/2残存 口 (13.6cm) 底 (6.0cm)		南東隅 床面上 6cm	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③ (内) 橙5YR6/6 (外) 灰黄褐10YR5/2	平底から、丸く大きく外反する体部に至る。体部はやや深く、口縁部は内湾する。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ調整。

2. 歴史時代後半期の出土遺物

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1670	須恵器 高台付 皿形土器	口縁部 $\frac{1}{4}$ 残存 口 13.0cm 高 2.9cm 底 6.3cm		東壁 床面上25.5cm	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y5/1	扁平な体部で、開いた高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1672	須恵器 高台付 椀形土器	口縁～底部 $\frac{1}{4}$ 残存 口 (14.0cm) 高 4.5cm 底 7.0cm		南壁寄り 床面上14cm	①細砂・小礫を含む。 ②還元焰。 ③灰白2.5Y7/1	底径が小さく、口縁部が外反する。断面台形の低い高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1673	須恵器 高台付 椀形土器	底部・高台部残存 底 7.0cm		中央南寄り 床面直上	①微細砂とわずかな小礫を含む。 ②還元焰。 ③灰白5Y7/1	底径が小さく、断面方形の高台を付す。 内外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1674	須恵器 高台付 椀形土器	口縁～底部 $\frac{1}{4}$ 残存 高台部欠損 口 (17.8cm)		西壁寄り 床面上14.5cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③灰白2.5Y8/1	わずかな膨らみをもつ深い体部で、体部のロクロ痕が顕著。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1668	土師器 甕形土器	口縁～体部下位 $\frac{1}{4}$ 残存 口 20.3cm		西壁寄り 床面上15.5cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明褐7.5YR5/6	口縁部が一旦直立して上位で外反する。胴部上位に最大径をもつ。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、下半縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。
1669	土師器 甕形土器	口縁～体部中部残存 口 19.0cm		中央部 床面直上	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙7.5YR6/6	丸みをもつ体部から直立して、小さく外反する口縁部に至る。器肉はやや厚い。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。
1667	土師器 甕形土器	口縁 $\frac{1}{4}$ ～底部 $\frac{3}{4}$ 残存 口 (17.4cm) 高 24.8cm 底 4.4cm		西壁寄り 床面上9.5cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/6	器肉が厚く口縁部がくずれた「コ」の字を呈する。体部は丸く底部は小さい。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向、中位斜方向下位縦方向篋削り。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部横方向篋削り。
1666	土師器 甕形土器	口縁～体部下位 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (17.8cm)		竈先端 使用面上21cm	①微細砂と橙色鉱物粒を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい褐7.5YR5/3	体部の丸みは小さくなり、口縁部の上位・下位の屈曲は弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部下半縦方向篋削り。上半横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。

2区86号住居出土遺物観察表《土器》第94図・PL37

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1691	須恵器 杯形土器	口縁 $\frac{1}{4}$ ～底部残存 口 (13.0cm) 高 4.3cm 底 6.0cm		南東隅 床面上2.5cm	①微細砂を多く含む。 ②還元焰? ③灰白5Y7/1	底径が小さく、やや深い体部。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1675	土師器 甕形土器	口縁～体部中部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (18.8cm)		竈煙道先端 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	丸みのある体部から直立して、小さく外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。下半縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。
1676	土師器 甕形土器	口縁～体部上位 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (20.2cm)		竈内 使用面上11cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	体部の膨らみが小さく、口縁部下位と上位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。
1677	土師器 甕形土器	口縁～体部中部破片 口 (18.8cm)		竈右袖 使用面上12cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	口縁部が一旦直立して上位で外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。上半斜方向篋削り、下半縦方向篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。
1678	土師器 甕形土器	口縁～体部中部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (19.0cm)		竈右袖 使用面上12cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/8	丸みのある体部から直立して、短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横・斜方向篋削り後、中位縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。
1679	土師器 甕形土器	口縁～体部中部 $\frac{1}{2}$ 破片 口 (21.6cm)		竈右袖 使用面上12cm	①微細砂を少量含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR6/6	口縁部が一旦直立して上位で外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、中位縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。

2区87号住居出土遺物観察表《土器》第96図・PL37

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1680	須恵器 杯形土器	ほぼ完形 口 12.6cm 高 3.7cm 底 6.1cm		中央 床面上3.5cm	①細砂・微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③黒褐5YR3/1	体部が直線的に外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1681	須恵器 羽釜	口縁～体部中部破片 口 (22.0cm)		埋没土	①細砂・微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい黄橙10YR7/3	やや丸い体部に、内湾・肥厚する口縁部がつく。 外面 口縁部横ナデ。体部上半回転ナデ調整。下半指ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ調整。

2区92号住居出土遺物観察表《土器》第98図・PL38

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1689	土師器 杯形土器	口縁～体部破片 口 (12.4cm)		埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	平底から、やや膨らみをもって外反する体部に至る。口縁部は内湾し、内面端部は玉縁状の稜をもつ。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1688	須恵器 高台付 椀形土器	体部下位～高台部残存 底 (7.2cm)		中央部 床面上15cm	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③褐灰10YR5/1	小さな底部から、直線的な体部に至り、断面台形の高台を付す。 内外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。

遺物観察表

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1690	須恵器 皿形土器	口縁～底部1/4破片 口(14.7cm)高 底(7.0cm)	2.7cm	埋没土	①細砂・小礫を多く含む。 ②還元焰。 ③灰5Y6/1	体部は直線的で口縁部が水平に開く。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1683	土師器 甕形土器	口縁～体部下位残存 口 17.0cm		中央部 床面直上	①細砂・小礫を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	器肉が厚く、口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向笥割り。下半縦方向笥割り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向笥ナデ。
1685	土師器 甕形土器	口縁～体部下位1/2残存 口(19.2cm)		南壁際 床面上9cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/8	丸みをもつ体部から直立して、短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向笥割り後、下位縦方向笥割り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向笥ナデ。
1684	土師器 甕形土器	口縁～体部下位破片 口(21.4cm)		竈前 床面上4cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	丸みをもつ胴部上位から直立して、上位が短く外反する「コ」の字状の口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向笥割り後、下半縦方向笥割り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向笥ナデ。
1687	土師器 甕形土器	体部下位～底部残存 底 4.0cm		竈前 床面上4cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい赤褐5YR5/4	やや膨らんだ小さな底部から、少し膨らみをもって外反する体部に至る。 外面 体部下位縦方向笥割り。底部笥割り。 内面 体部下位～底部横方向笥ナデ。
1686	土師器 甕形土器	体部中位～底部残存 底 3.8cm		竈右袖脇 床面上7.5cm	①微細砂・橙色鋳物粒を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	小さな平底から、少し膨らみをもって外反する体部に至る。 外面 体部下半縦方向笥割り。底部笥割り。 内面 体部下半～底部横方向笥ナデ。

2区93号住居出土遺物観察表《土器》第98図・PL38

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1694	須恵器 椀形土器	口縁部破片		埋没土	①細砂と少量の小礫を含む。 ②酸化焰。 ③灰黄2.5Y7/2	体部上位内面に「王」の墨書。 内外面 口縁部回転ナデ調整。
1693	須恵器 高台付 椀形土器	体部下位～底部1/2残存 底(8.0cm)		竈右袖 使用面直上	①細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③灰黄2.5Y6/2	丸みをもつやや大形の体部に開いた高台を付す。 内外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1692	須恵器 羽釜	口縁～体部上位破片 口(19.8cm)		東壁寄り 床面上2cm	①細砂・微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰白N7/	やや内湾する口縁部。斜上方に立ち上がる鐙がつく。 内外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ調整。

2区96号住居出土遺物観察表《土器》第101図・PL39

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1697	土師器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口(13.2cm)高 底 5.8cm	3.9cm	南東P内 底面直上	①細砂・小礫を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/6	小さな底部から、大きく外反する体部に至る。口縁部は内湾する。 外面 口縁部横ナデ。体部斜方向笥割り、上部指ナデ。底部笥割り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1696	須恵器 杯形土器	口縁～体部1/2欠損 口(12.6cm)高 底 6.4cm	3.4cm	竈内 使用面直上	①微細砂・細砂を多く含む。 ②還元焰。 ③灰N4/	底径が小さく、口縁部が外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1695	土師器 甕形土器	口縁1/4～体部下位1/2残 口(19.2cm)		西壁際 床面上3cm	①細砂・小礫を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい褐7.5YR6/3	体部の膨らみが小さく、口縁部下位と上位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向笥割り後、下半縦方向笥割り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向木端状工具による笥ナデ。

2区98号住居出土遺物観察表《土器》第102図・PL39

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1701	須恵器 杯形土器	口縁～底部1/4破片 口(12.0cm)高 底(5.5cm)	3.5cm	埋没土	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰N5/	底径が小さく、小形の杯。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1699	須恵器 高台付 椀形土器	体部下位～底部残存 高台部欠損		西壁付近 床面上6.5cm	①細砂・小礫を多く含む。 ②還元焰。 ③灰黄2.5Y7/2	体部が直線的に外反する。 内外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。付高台。
1698	土師器 甕形土器	口縁～体部上位破片 口(20.0cm)		中央竈寄り 床面上3cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	体部の膨らみが小さく、口縁部下位と上位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向笥割り。上端指押さえ。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向笥ナデ。
1700	土製品 紡錘車	完形 上径 6.7cm 下径 6.7cm 厚 1.2cm		南東隅 床面上3cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/6	うすい円盤状の紡錘車。上面の孔の周囲は、使用による剝離がみられる。

2. 歴史時代後半期の出土遺物

2区99号住居出土遺物観察表《土器》第104・105図・PL41

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1713	土師器 杯形土器	口縁～体部下位1/4残存 口 (14.0cm)	埋没土	①細砂・微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	平底から膨らみをもって外反する体部に至る。口縁部は大きく外反してから内湾する。外面 口縁部横ナデ。横ナデの中は広い。体部下半篔削り後、上半指ナデ。底部篔削り。 内面 口縁部横ナデ。体部ナデ後、放射状の篔磨き。
1714	土師器 杯形土器	口縁部破片 口 (14.0cm)	埋没土	①微細砂・砂粒を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい赤褐5YR5/3	平底から、膨らみをもって外反する体部に至る。口縁部は大きく外反してから内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部下半篔削り後、上半指ナデ。底部篔削り。内面 口縁部横ナデ。体部ナデ後、放射状の篔磨き。
1715	土師器 杯形土器	口縁部破片 口 (13.8cm)	埋没土	①微細砂を少量含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	平底から、膨らみをもって外反する口縁部に至る。口縁部は大きく外反してから内湾する。 外面 口縁部横ナデ。体部下半横方向篔削り後上半指ナデ。底部篔削り。 内面 口縁部横ナデ。体部ナデ後、放射状の細い篔磨き。
1716	土師器 杯形土器	口縁～体部下位残存 口 (12.4cm)	埋没土	①微細砂を少量含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙5YR6/4	平底から、やや膨らみをもって外反する体部に至る。口縁部は内湾し、内面端部は玉縁状。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篔削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1707	須恵器 杯形土器	完形 口 12.6cm 高 3.3cm 底 5.8cm	南壁際 床面上5.5cm	①微細砂・小礫を含む。 ②還元焰。 ③灰N4/	直線的で浅い体部をもつ。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1711	須恵器 高台付 皿形土器	口縁部1/4欠損 口 12.3cm 高 2.4cm 底 7.0cm	北東壁際 床面直上	①微細砂・細砂を多く含む。 ②還元焰。 ③灰5Y6/1	扁平な体部で開いた高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ調整。底部回転篔削り?付高台。
1710	須恵器 長頸 壺形土器	底部残存 底 9.0cm	東壁付近北寄り 床面上1.5cm	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③暗褐7.5YR3/4	内外面 断面長方形の高台を付す壺形土器の底部。自然釉が著しく、外面も茶褐色に変色している。底部内面の自然釉の範囲はせまく、長頸壺になると思われる。
1708	須恵器 高台付 碗形土器	口縁～体部下位1/4欠損 口 (14.4cm) 高 6.0cm 底 8.2cm	東壁際南寄り 床面上3cm	①細砂・橙色小礫を多く含む。 ②還元焰。 ③(内) にぶい橙5YR7/4 (外) 灰10Y6/1	体部がやや丸みをもって断面台形の低い高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1709	須恵器 高台付 碗形土器	底部破片 底 7.2cm	竈左袖前 床面上3.5cm	①微細砂を多く含む。 ②還元焰。 ③灰5Y6/1	下位に丸みをもつ深い体部で、断面長方形の低い高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1705	土師器 甕形土器	口縁～体部上位1/4残存 口 (19.4cm)	中央西寄り 床面上3cm	①微細砂・赤色鉱物粒を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙5YR6/4	丸みのある体部から直立して、短く上方で外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篔削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篔削り。
1712	土師器 甕形土器	口縁～体部下位1/4残存 口 (20.4cm)	埋没土	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/6	丸みのある体部から直立して、小さく外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篔削り後、下位縦方向篔削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篔削り。
1703	土師器 甕形土器	口縁～体部中位1/4残存 口 18.8cm	西壁付近 床面上20cm	①微細砂・細砂を含む。赤色 鉱物粒を含む。②酸化焰。 ③赤褐5YR4/6	丸みをもつ胴部上位から直立して、上位が短く外反する「コ」の字状の口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篔削り後、下半縦方向篔削り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向篔削り。
1702	土師器 甕形土器	口縁～体部下位1/4残存 口 (20.4cm)	西壁付近 床面上20cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい褐7.5YR5/4	体部の膨らみは大きい、口縁部下位の屈曲が弱くなっている。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篔削り後、中位～下位斜・縦方向篔削り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向篔削り。
1704	土師器 甕形土器	口縁～体部下位残存 口 (19.8cm)	中央西寄り 床面上10.5cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙5YR6/4	丸みをもつ体部から直立して、短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篔削り、中位～下位縦方向篔削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篔削り。
1706	土師器 甕形土器	体部下位～底部残存 底 4.5cm	南壁際 床面上12.5cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	小さな平底から、直線的に外反する体部に至る。 外面 体部下位縦方向篔削り。 内面 体部下位横方向篔削り。

2区99号住居出土遺物観察表《石器》第105図・PL41

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石重 材重 (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S186	紡錘車	上径 3.9 下径 3.0 厚さ 2.1	砥沢石 46.1	南壁際 床面直上	台形の紡錘車。上・下・側面とも平滑につくられており、中央に一孔が貫通する。上面には平行な擦痕が一部にみられる。孔の周囲は、敲打状の使用痕がみられる。側面は、多角状にゆるい面とりをし、その平滑面に「大上」の刻書が4カ所に刻まれている。上縁の一部に欠損部がある。下面は平滑で、孔周囲の使用痕はほとんどない。完形。
S187	碁石	1.6・1.6 0.8	石英 3.3	南壁際 床面直上	隅丸三角形のやや扁平な石。顕著な整形痕は認められないが、つるつるしている。完形。

2区100号住居出土遺物観察表《土器》第107図・PL42

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1717	須恵器 高台付 碗形土器	口縁部1/4残存 口 (13.6cm) 高 5.3cm 底 (6.2cm)	中央北東寄り 床面上9.5cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②還元焰。 ③灰白2.5Y8/1	浅い体部が直線的に外反し、開いた高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。

遺物観察表

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1720	須恵器 高台付 椀形土器	口縁～体部1/2欠損 口(14.4cm)高 5.0cm 底 6.4cm	埋没土	①細砂・小礫を含む。 ②還元焙。 ③灰白5Y7/1	体部がわずかな丸みをもって大きく外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1722	灰釉陶器 高台付 椀形土器	口(15.8cm)高 5.2cm 底(7.0cm)	埋没土	①細砂を少量含む。 ②還元焙。 ③灰白5Y7/1	体部にわずかな丸みをもって、口縁部が小さく外反し三日月状の高台を付す。外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。漬け掛け施釉。底部回転糸切り。付高台。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。漬け掛け施釉。底部回転ナデ調整。
1721	灰釉陶器 椀形土器	口縁～体部下位破片 口(16.0cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②還元焙。 ③灰白7.5Y7/1	体部にわずかな丸みをもって、口縁部が小さく外反する。内外面、刷毛塗り施釉。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。
1718	土師器 甕形土器	口縁～体部1/2残存 口(19.2cm)	埋没土	①微細砂を少量含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR6/6	丸みのある体部から直立して、外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、下半縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。
1719	土師器 甕形土器	口縁部破片 口(20.6cm)	埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐5YR5/6	口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位斜方向篋ナデ。
1723	灰釉陶器 壺形土器	把手破片	埋没土	①黒色鉱物細粒を多く含む。 ②還元焙。 ③灰白2.5Y7/1	表面に施釉。

2区100号住居出土遺物観察表《石器》第107図・PL42

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 材 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S190	砥石	10.8・9.5 4.0	粗粒輝石安山岩 550	埋没土	円礫の上面に2条の溝状に研磨痕がある。半欠。
S188	砥石	8.5・3.9 3.9	砥沢石 114.4	埋没土	上面・下面が使用された砥石。下端欠損。
S189	板状 石製品	3.6・4.7 5.5	珪質粘板岩 11.9	埋没土	薄い板状の剥片の2辺を整形して形づくっている。表面・裏面ともに磨かれている。半欠。

2区101号住居出土遺物観察表《土器》第108図・PL43

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1725	須恵器 杯形土器	完形 口 13.0cm 高 3.9cm 底 6.5cm	東壁付近 床面上3.5cm	①微細砂を多く含む。 ②還元焙。 ③灰白10Y7/1	直線的に開く体部から、外反しない口縁部に至る。外面に「亥？」の墨書。外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部回転ナデ。
1726	須恵器 杯形土器	口縁～底部1/2破片 口(15.0cm)高 3.3cm 底(9.8cm)	竈左前 床面上4cm	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焙。 ③灰7.5Y6/1	浅い体部で、やや内湾する口縁部に至る。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転篋削り。
1724	灰釉陶器 耳皿形 土器	ほぼ完形 口 11.0cm 高 3.1cm 底 5.0cm	竈右袖際 床面上14.5cm	①細砂を少量含む。 ②還元焙。 ③灰N6/	おしあげられた口縁端部は、波状にくねっており、残った口縁部は上面に巾広の面をとる。内外面、刷毛塗り施釉。 外面 底部回転糸切り。無調整。

2区103号住居出土遺物観察表《土器》第109図・PL43

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1729	灰釉陶器 皿形土器	口縁～高台部破片 口(13.3cm)高 2.3cm 底(7.7cm)	貯蔵穴西脇 床面直上	①微細砂を含む。 ②還元焙。 ③灰白2.5Y8/1	わずかな丸みをもつ体部から、小さく外反する口縁部に至る。断面台形の高台を付す。漬け掛け施釉。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り離し。
1728	須恵器* 高台付 椀形土器	口縁部一部欠損 口 12.2cm 高 5.1cm 底 7.6cm	竈内 使用面直上	①微細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③明褐灰7.5YR7/2	小形で体部がわずかな丸みをもって大きく外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1727	土師器 甕形土器	口縁～体部上位破片 口(18.2cm)	竈内 使用面上8cm	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐5YR5/6	器肉が厚く、口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。

2区1号竪穴出土遺物観察表《土器》第110図・PL43

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1735	須恵器 蓋形土器	口縁部破片 口(15.8cm)	埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焙? ③灰黄2.5Y7/2	水平な天井部から、緩やかに湾曲する体部を経て口縁部が内傾する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。天井部回転篋削り。
1733	須恵器 高台付 杯形土器	口縁部一部欠損 口(12.2cm)高 4.1cm 底 7.7cm	南東部 床面上14cm	①微細砂・黒色鉱物粒を少量含む。②還元焙。 ③灰5Y6/1	浅い体部が直線的に外反し、開いた高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。

2. 歴史時代後半期の出土遺物

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1734	土師器 甕形土器	口縁部破片 口 (23.0cm)		埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	丸みをもつ体部上位から直立して、上位が短く外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。

5区1号住居出土遺物観察表《土器》第112区・PL44

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1349	土師器 杯形土器	口縁部一部欠損 口 12.0cm 高 2.9cm		東際 床面上5.5cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	大きめの平底から、直立に近く外反する浅い体部に至る。口縁部は外反する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1350	土師器 杯形土器	口縁部1/4欠損 口 (13.0cm) 高 3.1cm		東際 床面上5.5cm	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい黄褐10YR5/4	大きめの平底から、稜をもつて直立に近く外反する体部に至る。口縁部は外反する。外面 口縁部横ナデ。体部丁寧なナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1351	土師器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口 12.4cm 高 3.1cm		東際 床面上5.5cm	①微細砂・砂粒を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	大きめの平底から、稜をもつて直立に近く外反する体部に至る。口縁部は外反する。外面 口縁部横ナデ。体部丁寧なナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1421	土師器 杯形土器	口縁1/2～底部残存 口 (12.4cm) 高 3.2cm		南壁際 床面上20cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい褐7.5YR5/4	大きめの平底から、稜をもつて直立に近く外反する体部に至る。口縁部は内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1352	須恵器 高台付段 皿形土器	底部破片 底 (8.0cm)		東際 床面上8.5cm	①細砂・小礫・黒色鉱物微細粒を含む。②還元焰。 ③灰N6/	内面下に段をもつ。 内外面 体部回転ナデ。底部回転篋切り後、周縁回転篋削り。付高台。
1353	須恵器 高台付 椀形土器	底部残存 底 (11.0cm)		埋没土	①細砂・微細砂を含む。 ②還元焰。 ③(外) 灰N4/ (内) 灰白2.5Y7/1	体部下位に膨らみをもち、ハの字に大きく開く高台を付す。 外面 底部回転糸切り。周縁篋ナデ。付高台。
1425	須恵器 円面硯	台部1/2残存 底 (16.4cm)		南壁際 床面上16cm	①微細砂・黒色鉱物粒を多く含む。②還元焰。 ③灰N5/	台部は四方に方窓があき、その間は線刻で5等分されている。線刻はするどい。
1348	土師器 甕形土器	口縁～体部中位破片 口 (21.4cm)		貯蔵穴際 床面上1.5cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	口縁部が一旦直立して、上位で外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、下半縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向丁寧なナデ。
1347	土師器 甕形土器	口縁～体部中位破片 口 (20.6cm)		中央北 床面上7cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明褐7.5YR5/8	丸みをもつ体部上位から直立して、上位が短く外反する「コ」の字状の口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。

5区1号住居出土遺物観察表《石器》第112区・PL44

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石 重さ (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S139	砥石	4.6・3.9 4.0	砥沢石 55.2	埋没土	上面のみが使用されている砥石の破片。

5区6号住居出土遺物観察表《土器》第113区・PL45

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1739	土師器 蓋形土器	摘み部破片		埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい褐7.5YR5/4	断面長方形の摘み。 外面 ナデ調整。 内面 ナデ調整。黒色処理。
1737	土師器 杯形土器	完形 口 12.3cm 高 3.3cm 底 7.6cm		竈前 床面直上	①微細な黒色鉱物粒が目立つ。②酸化焰。 ③にぶい赤褐5YR5/4	平底からやや膨らみをもつて外反する体部に至る。口縁部は内湾する。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ、指押さえ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1738	須恵器 高台付 皿形土器	口縁部欠損 口 12.6cm 高 2.7cm 底 6.8cm		竈前 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②還元焰。 ③灰5Y5/1	浅い体部が直線的に外反し、開いた高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1736	土師器 台付 甕形土器	口縁～体部中位破片 口 (12.6cm)		竈内 使用面上5cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい赤褐5YR5/4	丸みのある体部から直立して、上位が短く外反する「コ」の字状の口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部上半横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上半横方向篋ナデ。

5区9号住居出土遺物観察表《土器》第114区・PL45

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1744	土師器 杯形土器	口縁～体部1/2残存 口 (12.0cm)		埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	平底から、やや膨らみをもつて外反する体部に至る。口縁部は内湾し内面端部は玉縁状。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ、指押さえ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1743	須恵器 杯形土器	口縁部一部欠損 口 (12.0cm) 高 3.4cm 底 7.0cm		埋没土	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③暗灰N3/0	体部が直線的に外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。

遺物観察表

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1741	須恵器 杯形土器	口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 残存 口(12.7cm)高 3.3cm 底 6.0cm	竈内 使用面上7.5cm	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰N5/	体部中位に膨らみをもつ。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1742	須恵器 高台付 碗形土器	口縁～高台部残存 口(15.2cm)高 6.9cm 底(8.0cm)	埋没土	①砂粒・細砂を多く含む。 ②還元焰。 ③(内)灰白5Y7/1 (外)灰N6/	小さな底部から直線的な体部に至り、断面台形の小さな高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1740	土師器 甕形土器	口縁・体部一部欠損 口(20.2cm)高 27.9cm 底 3.7cm	竈内 使用面直上	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/6	小さな平底から立ち上がり、膨らみのある体部上位から直立し、上方で外反する口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。上半部と中位に2段の無調整帯が残る。体部上位横方向篋削り。下半縦方向篋削り。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。底部ナデ。

5区11号住居出土遺物観察表《土器》第115図・PL45

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
862	土師器 杯形土器	ほぼ完形 口 11.8cm 高 3.4cm 底 8.0cm	北壁寄り 床面上3.5cm	①直径1～5mmの砂粒・雲母細片を多く含む。②酸化焰。③にぶい褐7.5YR6/4	平底。杯部中位は指で押さえ形づくりられ、口縁端部は丸く肥厚し、内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部一方方向篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部ナデ。底部ナデ。指頭痕残る。
1748	須恵器 杯形土器	口縁部一部欠損 口(12.7cm)高 3.6cm 底 6.7cm	中央東寄り 床面上1.5cm	①微細砂を多く含む。 ②還元焰。 ③灰N5/	やや底径が小さく、直線的に外反する体部。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1747	須恵器 杯形土器	口縁～体部 $\frac{3}{4}$ 欠損 口(13.4cm)高 3.6cm 底 7.3cm	中央北寄り 床面上2cm	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰黄2.5Y6/2	体部中位に膨らみをもつ。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り後、周縁ナデ。
1749	土師器 台付 甕形土器	口縁部 $\frac{1}{2}$ 破片 口(10.8cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	口縁部が一旦直立して、上位で外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向ナデ。
1746	土師器 台付 甕形土器	台部残存 底 8.0cm	中央北寄り 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい赤褐2.5YR5/4	ハの字に開く台部。 外面 台部横ナデ。端部横ナデ。 内面 台部指ナデ。端部横ナデ。

6区3号住居出土遺物観察表《土器》第117図・PL46

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1759	土師器 杯形土器	口縁部破片 口(12.0cm)	南東隅 床面上9cm	①細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③赤褐5YR4/8	大きめの平底から外反する体部に至る。口縁部と体部の間には段があり、口縁部は内湾する。内面端部は玉縁状。外面 口縁部横ナデ。体部指押さえ。底部篋削りか？内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1755	須恵器 杯形土器	ほぼ完形 口 12.6cm 高 3.7cm 底 6.7cm	南西隅 床面直上	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰黄2.5Y7/2	底径が小さく、口縁部が外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1756	須恵器 高台付 碗形土器	口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 14.4cm 高 4.9cm 底 6.3cm	南東隅 床面上4cm	①細砂と少量の小礫を含む。 ②還元焰。 ③灰黄2.5Y6/2	小さな底部から、わずかに丸みをもった体部に至り、端部の丸い高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1757	須恵器 高台付 碗形土器	口縁部一部欠損 口 14.9cm 高 6.1cm 底 7.1cm	貯蔵穴内 底面直上	①砂粒・小礫を多く含む。 ②酸化焰。 ③明黄褐10YR6/6	わずかな膨らみをもつ深い体部で、断面方形の高台を付す。体部にクロ口痕が顕著。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1758	須恵器 高台付 碗形土器	底部残存 底 8.8cm	中央南寄り 床面直上	①細砂を少量含む。 ②還元焰。 ③灰5Y6/1	下位に丸みをもつ深い体部で、断面長方形の高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1750	土師器 甕形土器	口縁～体部下位残存 口 19.1cm	貯蔵穴内 底面下6cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	体部の膨らみが小さく、口縁部下位と上位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、下位縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。
1752	須恵器 長頸 甕形土器	口縁～頸部残存 口 13.2cm	中央北寄り 床面直上	①細砂・少量の小礫を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y5/1	直立に近く立ち上がり、上位で外湾する口縁部。端部はさらに直立し下端は稜をもつ。 外面 口縁部回転ナデ調整。内面 口縁部回転ナデ調整。
1753	須恵器 甕形土器	体部上位～底部残存 底 9.0cm	貯蔵穴内 底面下8.5cm	①微細砂・黒色鉱物粒を多く含む。②還元焰。 ③灰7.5Y6/1	丸い体部の甕形土器。断面台形の巾広の高台を付す。 外面 体部回転ナデ調整。底部回転糸切り離し。付高台。 内面 体部～底部回転ナデ調整。
1751	須恵器 長頸 甕形土器	体部上位～底部残存 底(9.2cm)	南壁際 床面上8.5cm	①細砂・小礫を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y5/1	肩のほとんど張らない長い体部。断面長方形の高台を付す。 外面 体部回転ナデ調整。底部切り離し技法不明。 内面 体部～底部回転ナデ。
1754	須恵器 長頸 甕形土器	体部下位～底部残存 底(11.2cm)	東壁際 床面上3.5cm	①細砂・微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰N6/	わずかに膨らみをもつ体部に、断面台形の高台を付す。 外面 体部回転ナデ。底部切り離し技法不明。ナデ調整。 内面 体部回転ナデ。底部回転指ナデ。

2. 歴史時代後半期の出土遺物

6区8号住居出土遺物観察表《土器》第120図・PL47

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1777	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存	3.0cm	中央南寄り 床面上4.5cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙7.5YR6/6	平底からやや膨らみをもって、大きく外反する体部に至る。口縁部は内湾し、端部内面は玉縁状。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1778	土師器 杯形土器	口縁～体部 $\frac{1}{4}$ 欠損	3.1cm	南東隅 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	平底から、やや膨らみをもって外反する浅い体部に至る。口縁部はさらに外反し、端部は内湾して内面玉縁状。外面 口縁部横ナデ。体部指押しさえ。底部篋削り。中央に砂底を残す。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1781	土師器 杯形土器	完形	3.5cm	南東隅 床面直上	①微細砂・輝石・細粒を多く含む。②酸化焰。 ③橙2.5YR6/6	平底から、やや膨らみをもって外反する体部に至る。口縁部は内湾し、内面端部は玉縁状。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ、指押しさえ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1779	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{4}$ 欠損	3.1cm	南東隅 床面上3.5cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/6	平底から、やや膨らみをもって外反する体部に至る。口縁部は内湾し、内面端部は玉縁状。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1782	土師器 杯形土器	口縁～体部 $\frac{1}{4}$ 欠損	3.2cm	南東隅 床面上4.5cm	①微細砂・細砂を少量含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	平底の底部から、やや膨らみをもって外反する体部に至る。口縁部は内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧な指ナデ。
1780	土師器 杯形土器	口縁部 $\frac{1}{4}$ 欠損	3.2cm	南東隅 床面上18.5cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/8	平底から、やや膨らみをもって外反する体部に至る。口縁部は内湾し、内面端部は玉縁状の稜をもつ。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ、指押しさえ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1785	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{3}{4}$ 残存	3.4cm	南東隅 床面上7cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5YR6/4	平底から、やや膨らみをもって外反する体部に至る。口縁部は内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部指押しさえ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1783	黒色土器 杯形土器	口縁～底部破片	4.2cm	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③(内)黒N1.5/ (外)浅黄橙10YR8/3	小さめの底部から、やや膨らみをもって外反する体部に至る。外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。内面 口縁部～底部横方向細かい篋磨き。黒色処理。
1771	須恵器 杯形土器	口縁部一部欠損	4.0cm	貯蔵穴内 底面上17cm	①細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y6/1	底径が小さく、直線的な体部。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1768	須恵器 杯形土器	口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 残存	4.2cm	南東隅 床面直上	①細砂・小礫を少量含む。 ②還元焰。 ③灰白10YR7/1	底径が小さく、口縁部が外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1774	須恵器 高台付 皿形土器	口縁～高台部 $\frac{1}{2}$ 残存	3.3cm	南東隅 床面上9cm	①細砂を少量含む。 ②還元焰。 ③灰7.5Y4/1	扁平な体部で、開いた高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1770	須恵器 高台付 碗形土器	底部・高台部欠損	15.8cm	貯蔵穴内 底面上15cm	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③黄灰2.5Y6/1	わずかな膨らみをもつ、深い体部。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1766	須恵器 高台付 碗形土器	口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 欠損	6.4cm	中央 床面上13cm	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y6/1	下位に丸みをもつ深い体部。断面台形の低い高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1769	須恵器 高台付 碗形土器	口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 欠損	5.7cm	南壁際 床面上11cm	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙2.5YR6/6	直線的な深い体部で、断面台形の低い高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1776	須恵器 高台付 碗形土器	口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 欠損	5.2cm	貯蔵穴内 底面下5.5cm	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰7.5Y6/1	小さな底部から直線的な体部に至り、断面台形の低い高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1772	須恵器 高台付 碗形土器	口縁部一部欠損	6.3cm	貯蔵穴内 底面上13.5cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③灰白5Y8/1	わずかな膨らみをもつ深い体部で、断面方形の高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1773	須恵器 高台付 碗形土器	口縁部一部欠損	5.9cm	貯蔵穴内 底面下5.5cm	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③灰白7.5Y7/1	わずかな膨らみをもつ深い体部で、断面が方形の高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1775	須恵器 高台付 碗形土器	口縁～底部 $\frac{1}{4}$ 残存	6.2cm	南東隅 床面直上	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい黄橙10YR6/4	わずかな膨らみをもつ深い体部で、開いた高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1767	須恵器 高台付 碗形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存	5.6cm	南西隅 床面上3cm	①微細砂を多く含む。 ②還元焰。 ③灰7.5Y6/1	体部が丸みをもって、ロク口痕が顕著につけられている。端部の丸い高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転篋削り。付高台。
1761	土師器 甕形土器	口縁～体部上位 $\frac{1}{2}$ 残存	20.0cm	竈前 床面直上	①微細砂・赤色鉱物粒を含。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	丸みをもつ体部上位から直立して、上位が短く外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。
1763	土師器 甕形土器	口縁～体部上位 $\frac{1}{2}$ 残存	20.2cm	中央南寄り 床面上10cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙5YR6/4	丸みのある体部から直立して、上位で短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。

遺物観察表

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1760	土師器 壺形土器	口縁～体部下位1/4残存 口 (19.8cm)	中央 床面上2.5cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐5YR6/8	丸みのある体部から直立し、短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、下半縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。
1762	土師器 壺形土器	口縁～体部下位1/4残存 口 (20.0cm)	中央南寄り 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐5YR5/6	丸みのある体部から直立して、上位で短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り、下半縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。
1764	土師器 台付 壺形土器	口縁～体部上位1/4残存 口 (14.2cm)	埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐5YR5/6	丸みのある体部から直立して、短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。
1765	土師器 台付 壺形土器	体部中位～台部残存 底 8.9cm	中央南寄り 床面直上	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③橙2.5YR6/6	丸みのある台部から、裾がやや内湾して開く台部に至る。 外面 体部下半縦方向篋削り。底部～台部横方向ナデ調整。 内面 体部下半横方向篋ナデ。底部～台部横方向ナデ調整。

6区9号住居出土遺物観察表《土器》第121図・PL48

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1788	土師器 杯形土器	口縁～底部1/4残存 口 (11.6cm) 高 2.9cm	埋没土	①微細砂・小礫を含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR6/6	平底から、やや膨らみをもって外反する浅い体部に至る。口縁部は内湾する。内面端部は玉縁状。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ、指押さえ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1789	土師器 杯形土器	口縁部1/4残存 口 11.8cm 高 3.3cm 底 8.0cm	埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR6/6	平底から、やや膨らみをもって外反する浅い体部に至る。口縁部は内湾し、内面端部に玉縁状の稜をもつ。外面 口縁部横ナデ。体部指押さえ、ナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1790	土師器 杯形土器	体部～底部破片	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR6/6	平底から、やや膨らみをもって外反する体部に至る。 外面 体部下半横方向篋削り。底部篋削り。 内面 体部ナデ後、放射状の細い篋磨き。底部丁寧なナデ。
1786	ククロ 土師器 碗形土器	底部のみ残存 底 8.2cm	中央 床面直上	①砂粒を含む。赤色鉱物粒が目立つ。②酸化焙。 ③橙7.5YR6/6	平底。 外面 底部回転糸切り。無調整。 内面 底部一方向の細かい篋磨き。黒色処理。
1784	須恵器 杯形土器	口縁～底部1/4残存 口 (13.0cm) 高 5.8cm 底 (7.4cm)	南東隅 床面直上	①微細砂を含む。 ②還元焙。 ③灰白5Y7/1	下位に丸みをもつ深い体部。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。内面に十文字の刻書あり。底部回転糸切り。無調整。
1791	須恵器 皿形土器	口縁部1/4欠損 口 (15.6cm) 高 2.5cm 底 6.8cm	埋没土	①細砂を多く含む。 ②還元焙。 ③灰5Y6/1	体部が扁平で、口縁部が水平に開く。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1787	土師器 壺形土器	頸部～体部下位1/4破片 最 (24.0cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐5YR5/6	丸みをもつ胴部上位から直立して、上位が短く外反する「コ」の字状の口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、下半縦方向篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。

6区10号住居出土遺物観察表《土器》第122図・PL48

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1792	土師器 杯形土器	口縁～底部1/4残存 口 (12.4cm) 高 3.4cm 底 6.9cm	中央南東寄り 床面上3.5cm	①細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐5YR5/6	平底から、大きく外反する体部に至る。口縁部は内湾する。 外面 口縁部横ナデ。体部指押さえ、指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1793	須恵器 高台付 碗形土器	体部下位～底部1/4破片 底 (6.4cm)	竈内 使用面上7.5cm	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③にぶい橙7.5YR7/4	小さな底部から直線的な体部に至る。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1794	土師器 壺形土器	口縁～体部下位1/4破片 口 (21.0cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③明褐7.5YR5/6	体部の膨らみが小さく、口縁部下位と上位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。

6区15号住居出土遺物観察表《土器》第123図

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1795	土師器 杯形土器	口縁～体部1/4残存 口 (12.2cm)	埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR6/6	大きめの平底から、鋭い稜をもって外反する体部に至る。口縁部は外反する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。

7区1号住居出土遺物観察表《土器》第124図・PL49

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1800	土師器 杯形土器	口縁～体部1/4欠損 口 13.2cm 高 5.0cm 底 6.2cm	北東壁際 床面上11cm	①細砂・小礫を多く含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR6/6	小さな底部から、大きく外反する深い体部に至る。口縁部は端部外面に面とりする。外面 口縁部横ナデ。体部斜方向篋削り後、上部横方向指ナデ。底部篋削り。一部に砂底痕残る。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。

2. 歴史時代後半期の出土遺物

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1799	土師器 高台付 椀形土器	口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損 口 14.1cm 高 5.8cm 底 7.2cm		西壁際 床面上6cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい黄橙10YR7/3	小さめの底部から、大きく外反する体部に至る。口縁部はやや内湾し肥厚する。断面台形の高台を付す。外面 口縁部横ナデ。体部斜方向篋削り。底部篋削り。高台接合部ナデ調整。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部縦・斜方向細かい篋磨き。
1798	土師器 台付 甕形土器	口縁部破片 口 (14.2cm)		東壁際 床面上11cm	①微細砂・白色鉱物粒を含む。 ②酸化焰。 ③橙7.5YR6/6	口縁部上位と下位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。
1797	土師器 甕形土器	口縁～体部中位 $\frac{2}{3}$ 残存 口 19.0cm		南西隅 床面上3.5cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい赤褐5YR5/4	丸みのある体部から直立して、短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。

7区2号住居出土遺物観察表《土器》第125図

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1802	土師器 甕形土器	口縁～体部中位破片 口 (22.8cm)		埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③赤褐5YR4/6	器肉が厚く、口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り、下半縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。
1801	土師器 甕形土器	口縁～体部中位破片 口 (16.0cm)		南東部 床面上4.5cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5YR6/4	膨らみのない体部から少し直立して、短く外反する口縁部に至る。口縁端部はやや肥厚する。外面 口縁部横ナデ。体部縦方向篋削り後、ナデ。内面 口縁部横ナデ。体部丁寧なナデ。
1820	土師器 甕形土器	体部中位破片 最 (18.4cm)		埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5YR6/4	1801と同一の甕の体部破片。 外面 体部縦方向篋削り後、中位ナデ調整。 内面 体部横方向の丁寧なナデ。
1821	土師器 甕形土器	底部破片 底 (7.2cm)		埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5YR6/4	膨らみをもって立ち上がる底部破片。1801と同一の底部破片。 外面 体部下端斜方向篋削り。底部指ナデ。 内面 体部～底部丁寧なナデ。

7区5号住居出土遺物観察表《土器》第126図・PL49

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1805	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 破片 口 (13.9cm) 高 5.0cm 底 (8.0cm)		竈内 使用面上10cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5YR7/4	小さめの平底から、膨らみをもって大きく外反する体部に至る。口縁部は肥厚しない。外面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り後、上半横方向指ナデ。底部砂底。周縁のみ篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1806	土師器 杯形土器	口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損 口 (12.0cm) 高 4.5cm 底 7.0cm		貯蔵穴東際 床面上8cm	①細砂・微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙7.5YR6/6	小さな底部から、大きく外反する体部に至る。口縁部は外反する。外面 口縁部横ナデ。また口唇部に煤付着。体部指ナデ、指押さえ。上半に「王」墨書。底部砂底。周縁のみ篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1807	灰釉陶器 高台付 椀形土器	口縁～高台部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (10.2cm) 高 3.2cm 底 (4.4cm)		埋没土	①微細砂・黒色鉱物粒を含む。 ②還元焰。 ③灰白5Y7/1	やや丸みをもった体部から、外反する口縁部に至る。小形。断面台形の高台を付す。漬け掛け施釉。外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。底部付高台ナデ調整。内面 口縁部横ナデ。体部～底部回転ナデ。
1804	須恵器 高台付 椀形土器	口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損 口 14.8cm 高 5.6cm 底 8.0cm		P内 底面直上	①微細砂・少量の小礫を含む。 ②酸化焰。 ③灰5Y6/1	体部が直線的で断面台形の高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。
1808	灰釉陶器 高台付 皿形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (15.0cm) 高 3.0cm 底 (7.0cm)		埋没土	①微細砂を少量含む。 ②還元焰。 ③灰白10YR7/1	わずかな丸みをもつ体部から、小さく外反する口縁部に至り、くずれた三日月状の高台を付す。 内外面 回転ナデ。
1803	土師器 甕形土器	口縁～体部破片 口 (17.0cm)		中央部 床面上9cm	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	膨らみのある体部上位から、一旦直立して短く外反し、端部は内湾する口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。

7区9号住居出土遺物観察表《土器》第127図

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1811	土師器 杯形土器	口縁部破片 口 (14.0cm)		埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	大きく外反する体部から、端部がやや内湾する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部下半横・斜方向篋削り後、上半指ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部丁寧なナデ。
1810	土師器 甕形土器	口縁～体部上位 $\frac{1}{2}$ 破片 口 (13.0cm)		埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい褐7.5YR5/3	口縁部が一旦直立して上位で外反する。体部は丸い。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。

遺物観察表

8区1号住居出土遺物観察表《土器》第129図・PL50

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1812	土師器 羽釜	口縁 $\frac{3}{4}$ ～底部残存 口 20.0cm 高 20.7cm 底 7.4cm	西壁際 床面上3.5cm	①微細砂・小礫を多く含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐5YR5/6	器肉が厚く、浅い羽釜。口縁部はほぼ直立し、断面三角形の鐳を付す。 外面 口縁部横ナデ。体部下半斜方向篋削り後、上半横方向指ナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部横方向篋ナデ。
1813	須恵器 羽釜	体部下位一部欠損 口 21.5cm 高 26.6cm 底 (7.0cm)	南壁寄り 床面上11cm	①細砂・白色鉱物粒を多く含む。 ②酸化焙。 ③浅黄橙7.5YR8/3	断面三角形の鐳から、内傾する口縁部に至る。体部の膨らみは少ない。 平底。外面 口縁部横ナデ。体部上位～中位回転ナデ調整。下位縦方向篋削り。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ調整。
1817	土師器 羽釜	口縁～体部上位破片 口 (19.1cm)	埋没土	①細砂・小礫を多く含む。 ②酸化焙。 ③にぶい赤褐5YR4/4	丸い体部に内湾し、肥厚してつぶれたような口縁部がつく。 外面 口縁部横ナデ。体部縦方向篋ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向ナデ。
1814	土師器 甕形土器	口縁～体部下位一部欠損 口 (20.7cm) 高 24.2cm 底 (5.0cm)	南壁寄り 床面上10.5cm	①微細砂・小礫を多く含む。 ②酸化焙。 ③浅黄橙10YR8/4	器肉が厚く、口縁部がくずれた「コ」の字状を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向ナデ調整。下半縦方向篋削り。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部横方向篋削り。
1818	土師器 甕形土器	口縁～体部下位 $\frac{1}{4}$ 残存 口 (17.4cm)	埋没土	①細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③灰黄褐10YR4/2	器肉が厚く体部に膨らみをもって、短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、下半縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋ナデ。
1816	須恵器 高台付 椀形土器	口縁部一部欠損 口 10.9cm 高 5.1cm 底 5.6cm	南東隅 床面直上	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焙。 ③黒褐2.5Y3/1	わずかな丸みをもって、大きく外反する。小形。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部切り離し技法不明。付高台。
1815	土師器 鉢形土器	口縁～体部中位 $\frac{1}{4}$ 残存 口 (22.4cm)	南東隅 床面上3.5cm	①細砂・小礫を含む。 ②酸化焙。 ③にぶい橙7.5YR7/4	丸みのある体部から、やや内湾して立ち上がる口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向ナデ後、下位縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横・斜方向篋削り。

8区1号住居出土遺物観察表《金属器》第129図

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	材質	出土位置	形状・調整加工の特徴
M16	不明		鉄	埋没土	断面方形の2種類の鉄製品が、錆により付着した破片。一方は一辺0.5cmの正方形に近い断面で鉄の軸のような形態を呈する。もう一方は、幅1.8cm、厚0.7cmの長方形の断面を呈する。板状鉄製品の破片である。

8区2号住居出土遺物観察表《土器》第130図

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1819	須恵器 羽釜	口縁～体部上位破片 口 (22.0cm)	東壁際 床面直上	①少量の小礫と多くの細砂を含む。 ②酸化焙。 ③にぶい褐7.5YR5/4	丸い体部に内湾する口縁部・尖った鐳がつく。 外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ調整。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ。

8区3号住居出土遺物観察表《土器》第131図

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1824	須恵器 杯形土器	口縁～体部下位 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (16.0cm) 高 4.7cm	北壁際 床面直上	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焙。 ③黄灰2.5Y6/	中位に膨らみをもつ浅い体部から、口縁部が外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。無調整?
1823	土師器 台付 甕形土器	口縁～体部上位 $\frac{1}{4}$ 残存 口 (12.2cm)	竈左袖脇 床面直上	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③にぶい赤褐5YR4/3	丸みをもつ体部上位から直立して、上位が短く外反する「コ」の字状の口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部上位斜方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。篋上端痕が著しく残る。
1822	土師器 甕形土器	口縁～体部上位破片 口 (18.0cm)	北壁際 床面直上	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR6/6	体部の膨らみが小さく、口縁部下位と上位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋ナデ。

8区8号住居出土遺物観察表《土器》第133図・PL51

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1834	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{4}$ 残存 口 (12.0cm)	埋没土	①細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③にぶい褐7.5YR5/4	大きめの平底から、稜をもって直立に近く外反する深い体部に至る。口縁部は外反する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧ナデ。
1832	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{4}$ 欠損 口 12.5cm 高 4.3cm 底 5.0cm	貯蔵穴内 底面上3cm	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR7/8	小さな平底から、大きく外反する体部に至る。口縁部は端部外面に面をとり、やや肥厚する。外面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り後、上部指ナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧ナデ。
1833	須恵器 杯形土器	底部 底 6.0cm	西壁際 床面上8cm	①微細砂を含む。 ②還元焙。 ③灰白5Y7/1	小さめの底部。 外面 底部回転系切り。無調整。 内面 底部回転ナデ。

2. 歴史時代後半期の出土遺物

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1827	土師器 甕形土器	口縁部破片 口 (18.4cm)		東壁寄り 床面上13cm	①微細砂・白色鉱物粒を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	体部の膨らみが小さく、口縁部下位と上位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。
1829	土師器 甕形土器	口縁～体部中位1/2残存 口 (18.6cm)		南西隅 床面直上	①細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/6	体部の膨らみは残るが、口縁部の上位・下位の屈曲は弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。中央に無調整帯が残る。体部上位横方向篋削り後、下半縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部木端状工具による横方向篋削り。
1826	土師器 甕形土器	口縁～体部中位1/2残存 口 (19.6cm)		竈壁 使用面上8cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/8	体部の膨らみは小さく、口縁部の上位・下位の屈曲は弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、下半縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部木端状工具による横方向篋削り。
1830	土師器 甕形土器	口縁～体部中位1/2残存 口 (21.0cm)		貯蔵穴内 底面直上	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい褐7.5YR6/3	体部の膨らみが小さく、口縁部下位と上位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。
1828	土師器 甕形土器	体部中位～底部残存 底 4.0cm		南壁際 床面直上	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/8	小さな底部から、やや膨らみをもって外反する体部に至る。 外面 体部下半縦方向篋削り。底部篋削り。 内面 体部下半～底部横方向篋削り。
1825	土師器 台付 甕形土器	口縁～台部残存 口 (12.2cm)		東壁際 床面上8.5cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/6	丸みのある体部から直立して、上方で短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上半横方向篋削り、下半縦方向篋削り。台部ナデ調整。内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。台部ナデ調整。
1831	須恵器 短頸 壺形土器	頸部～体部下位1/2残存 最 (27.3cm)		南西隅 床面上2cm	①細砂・黒色鉱物粒を含む。 ②還元焰。 ③灰白5Y7/1	肩の張る体部から、直立に近く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ調整。 内面 口縁部横ナデ。体部回転ナデ調整。

8区9号住居出土遺物観察表《土器》第135図・PL52

番号	器種	残法	存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1847	土師器 杯形土器	口縁～底部破片 口 (13.0cm) 高 3.5cm		埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	平底から、やや膨らみをもって外反する体部に至る。口縁部は内湾し、内面端部に稜をもつ。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧ナデ。
1845	須恵器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口 12.4cm 高 3.4cm 底 (7.0cm)		埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y4/1	体部が直線的に外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1846	須恵器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口 (13.0cm) 高 3.7cm 底 (6.6cm)		埋没土	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰N5/	体部が直線的に外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1842	黒色土器 高台付 皿形土器	口縁～底部1/2残存 口 (12.8cm) 高 2.9cm 底 (6.4cm)		西壁寄り 床面直上	①微細砂を少量含む。 ②酸化焰。 ③(内)黒10YR1.7/1 (外)にぶい黄橙10YR5/4	扁平な体部で、低い高台を付す。 外面 口縁部～体部回転ナデ。底部切り離し後、ナデ調整。付高台。 内面 口縁部～底部細かい篋磨き。黒色処理。
1841	黒色土器 高台付 皿形土器	口縁～体部1/4欠損 口 13.7cm 高 2.6cm 底 7.0cm		貯蔵穴脇 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③にぶい褐10YR5/3	体部が扁平で、口縁部が水平に開く。 外面 口縁部～体部回転ナデ。底部切り離し後、ナデ調整。付高台。 内面 口縁部～体部磨いたような部分もある。
1844	須恵器 皿形土器	口縁部欠損 底 7.6cm		埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y5/1	扁平な体部。 内外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1843	須恵器 高台付 碗形土器	口縁～高台部1/2残存 口 (14.0cm) 高 5.9cm 底 (7.2cm)		南壁寄り 床面直上	①微細砂・小礫を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y6/1	小さな底部から直線的な体部に至り、断面台形の低い高台が付く。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。外面に「十」のカマ印。底部回転糸切り。付高台。
1838	土師器 甕形土器	口縁部破片 口 (21.0cm)		西P内 底面上5.5cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/8	口縁部が一旦直立して上位で外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。
1835	土師器 甕形土器	口縁～体部中位残存 口 19.2cm		竈前 床面上5.5cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐2.5YR5/6	膨らみのある体部から直立して、上方で短く外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。下半縦方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。
1837	土師器 甕形土器	口縁部破片 口 (20.4cm)		西壁寄り 床面直上	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙7.5YR6/4	丸みをもつ体部上位から直立して、上位が短く外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。
1836	土師器 甕形土器	口縁～体部上位1/2残存 口 (20.0cm)		貯蔵穴脇 床面上7cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/8	丸みをもつ体部上位から直立して、上位が短く外反する「コ」の字状の口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。
1839	土師器 甕形土器	口縁部破片 口 (20.2cm)		竈前 床面上5.5cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	丸みをもつ体部上位から直立して、上位が短く外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。
1840	須恵器 瓶	体部上位破片 最 (22.0cm)		東壁寄り 床面上18cm	①細砂と少量の小礫を含む。 ②還元焰。 ③灰オリープ5Y4/2	丸みのある体部に断面円形の環状の把手が付く。 外面 体部回転ナデ。上位に1条の沈線が引かれている。自然釉。 内面 体部回転ナデ。上位に1条の沈線が引かれている。自然釉。

遺物観察表

8区9号住居出土遺物観察表《石器》第135図・PL52

番号	器種	長さ・幅 厚さ (cm)	石重 材 (g)	出土位置	形状・調整加工の特徴
S191	砥石	7.1・4.9 2.85	砥沢石 84.1	埋没土	表面・裏面が使用されている砥石。裏面は中央部が凹んでいる。半欠。

8区10号住居出土遺物観察表《土器》第135図・PL53

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1848	土師器 甕形土器	口縁～体部上位1/2残存 口 19.0cm	東壁寄り 床面上8.5cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③明褐7.5YR5/6	体部の膨らみは小さく、口縁部の上位・下位の屈曲は弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。
1849	土師器 甕形土器	口縁～体部上位1/2残存 口 (20.2cm)	東壁寄り 床面上6cm	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	丸みのある体部上位から直立して、上位が短く外反する「コ」の字状の口縁部に至る。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。
1850	須恵器 長頸 壺形土器	底部破片・高台部欠損	中央東寄り 床面上10cm	①微細砂を含む。 ②還元焰。 ③灰5Y6/1	大きめの底部から、やや膨らみをもって立ち上がる。付高台。 外面 体部回転ナデ。最下部は回転篋削り。底部回転系切り後、丁寧なナデ調整。内面 体部～底部回転ナデ。
1851	須恵器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口 13.4cm 高 3.7cm 底 5.2cm	東壁寄り 床面上8cm	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③褐灰10YR4/1	中位に膨らみをもつ浅い体部。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。無調整。

8区12号住居出土遺物観察表《土器》第137図・PL53

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1393	土師器 杯形土器	口縁～底部1/4破片 口 (10.9cm) 高 3.3cm	貯蔵穴脇 床面上9cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③赤褐5YR4/6	やや膨らんだ平底から、鋭い稜をもって体部に至る。体部はやや膨らみをもって外反し、口縁部は内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1396	土師器 杯形土器	口縁～底部1/2残存 口 (11.6cm) 高 3.2cm	埋没土	①微細砂を少量含む。 ②酸化焰。 ③にぶい橙5YR6/4	やや膨らんだ平底から、鋭い稜をもって体部に至る。体部はやや膨らみをもって外反し、口縁部は内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1394	須恵器 杯形土器	口縁部1/4欠損 口 12.2cm 高 3.7cm 底 7.0cm	南壁際 床面上21.5cm	①細砂・小礫を多く含む。 ②還元焰。 ③灰白5Y7/1	体部が直線的に外反する。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。無調整。
1395	土師器 甕形土器	口縁部破片 口 (21.4cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	体部の膨らみが小さく、口縁部下位と上位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。
1392	須恵器 甕形土器	口縁～体部下位1/2残存 口 (22.0cm)	北壁際 床面上18cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②還元焰。 ③暗灰N3/	肩の張る大形の甕。口縁部は小さく外反し、端部に面とりする。 外面 口縁部横ナデ後、5本一単位の櫛描波状文を2条施文。体部全面に平行タキ。内面 口縁部～体部ナデ調整。

8区2号掘立柱建物出土遺物観察表《土器》第138図

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1398	土師器 杯形土器	口縁～底部破片 口 (12.0cm) 高 3.0cm	P 8 埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	大きめの平底から、内湾して口縁部が外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部指押さえ。墨書があるが判読できない。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1399	土師器 杯形土器	口縁～底部1/4破片 口 (12.0cm)	P 8 埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	丸みのある底部から、大きく外反する口縁部に至る。 外面 口縁部横ナデ。体部指押さえ。底部一部に篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ調整。
1400	土師器 杯形土器	口縁～体部1/4残存 口 (12.2cm)	P 3 埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焰。 ③橙5YR6/6	大きめの平底から、やや内湾して口縁部が外反する。 外面 口縁部横ナデ。体部下半ナデ。 内面 口縁部横ナデ。体部丁寧なナデ。

9区1号住居出土遺物観察表《土器》第140図

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1853	須恵器 高台付 碗形土器	底部残存 底 6.5cm	埋没土	①細砂・小礫を少量含む。 ②酸化焰。 ③灰白10Y7/2	体部に丸みをもち、低い高台を付す。 内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。付高台。
1852	土師器 甕形土器	口縁部破片 口 (17.0cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焰。 ③明赤褐5YR5/6	直立して上位が短く外反する「コ」の字状の口縁部を呈する。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。 内面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。

2. 歴史時代後半期の出土遺物

9区2号住居出土遺物観察表《土器》第142区

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1857	須恵器 高台付 椀形土器	体部下位～高台部残存 底 7.8cm	埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②酸化焙。 ③橙7.5YR6/6	わずかな膨らみをもつ体部に、うすく開いた高台を付す。 内外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1855	須恵器 高台付 椀形土器	体部下位～高台部残存 底 7.0cm	東壁際 床面上5cm	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焙。 ③灰白2.5Y7/1	小さな底部から直線的な体部に至り、断面台形の低い高台を付す。 内外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1854	須恵器 高台付 椀形土器	体部下位～高台部残存 底 5.8cm	東竈寄り 床面直上	①微細砂と少量の小礫を含。 ②還元焙。 ③灰黄2.5Y7/2	下位に丸みをもつ深い体部で、断面方形の低い高台を付す。 内外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り。無調整。
1856	須恵器 椀形土器	口縁部破片 口 (16.0cm)	東壁際 床面上5cm	①細砂を多く含む。 ②還元焙。 ③褐灰10YR5/1	やや大形の椀の口縁部～体部破片。内面に○で囲まれた文字が書かれている。 内外面 体部回転ナデ調整。
1871	土師器 甕形土器	頸部破片	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③にぶい赤褐5YR5/6	「コ」の字状を呈する口縁部破片。直径7mmほどの孔が穿たれている。 外面 口縁部横ナデ。 内面 口縁部横ナデ。

9区4号住居出土遺物観察表《土器》第143区

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1858	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{2}{3}$ 残存 口 (11.4cm) 高 3.5cm	埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③にぶい赤褐5YR5/4	やや膨らんだ大きめの平底から、鋭い稜をもつて体部に至る。体部はやや膨らみをもつて外反する。口縁端部はやや内湾。 外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。 内面 口縁部横ナデ。2カ所油煙付着。体部～底部丁寧なナデ。
1859	土師器 杯形土器	口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (12.0cm)	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③にぶい赤褐5YR5/4	大きめの平底から、稜をもつて外反する体部に至る。口縁部と体部の間には段があり、口縁部は内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部指押さえ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1860	須恵器 杯形土器	底部残存 底 7.0cm	埋没土	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焙。 ③黄灰2.5Y6/1	大きめの底部。 外面 底部回転糸切り。無調整。 内面 底部回転ナデ。
1861	須恵器 円面硯	台部破片 底 (17.0cm)	埋没土	①微細砂・黒色鉱物粒を含。 ②還元焙。 ③灰5Y6/1	ハの字に開き、端部が段をもつて大きく外反する台部破片。長方形の切りこみ窓が開けられている。 外面 台部ナデ後、20等分の位置に縦方向の篋描直線文。

9区5号住居出土遺物観察表《土器》第144区

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1863	土師質 土器 不明	高台部破片か？ 底 (8.4cm)	埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③浅黄褐10YR8/3	高台部破片とも思われるが、接合痕が明確でない。 外面 上面および上端は、篋削りのような整形痕がみられる。下半部は回転ナデ調整。内面 回転ナデ調整。
1862	須恵器 高台付 椀形土器	体部下位～底部 $\frac{1}{2}$ 残存 底 (8.0cm)	埋没土	①微細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR6/6	小さな底部から直線的な体部に至り、断面台形の低い高台を付す。 内外面 体部回転ナデ。底部回転糸切り。付高台。

11区1号住居出土遺物観察表《土器》第146区・PL56

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1408	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (12.0cm)	埋没土	①微細砂を少量含む。 ②酸化焙。 ③にぶい赤褐5YR5/4	平底から、やや膨らみをもつて外反する浅い体部に至る。口縁部は内湾し、内面端部は玉縁状。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1409	土師器 杯形土器	口縁～体部 $\frac{1}{4}$ 破片 口 (12.2cm) 高 3.2cm	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③にぶい褐7.5YR5/4	大きめの平底から、稜をもつて外反する体部に至る。口縁部は外反し、幅が広い。外面 口縁部横ナデ。体部指ナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1407	土師器 甕形土器	口縁～体部中位残存 口 (20.8cm)	竈内 使用面直上	①微細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③明赤褐2.5YR5/6	体部の膨らみは小さく、口縁部上位の屈曲が弱くなる。 外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り。中位縦方向篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。

11区2号住居出土遺物観察表《土器》第147区・PL57

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1411	土師器 杯形土器	口縁部 $\frac{1}{4}$ 欠損 口 (12.0cm) 高 3.4cm	竈内 使用面直上	①微細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③橙2.5YR6/6	大きめの平底から、稜をもつて直立に近く外反する体部に至る。口縁部は内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部丁寧なナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1412	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (11.6cm) 高 3.2cm	竈前 床面直上	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③にぶい褐7.5YR5/4	大きめの平底から、稜をもつて直立に近く外反する体部に至る。口縁部は外反する。外面 口縁部横ナデ。体部丁寧なナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。

遺物観察表

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1415	土師器 杯形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (11.8cm) 高 2.9cm	埋没土	①微細砂を含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR6/6	大きめの平底から、稜をもって直立に近く外反する体部に至る。口縁部は内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部丁寧なナデ。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部～底部丁寧なナデ。
1416	須恵器 杯形土器	口縁部 $\frac{1}{2}$ 欠損 口 (14.4cm) 高 3.3cm 底 7.0cm	埋没土	①細砂・小礫を含む。 ②還元焙。 ③灰7.5Y5/1	体部中位に膨らみをもち、口縁部が反り気味に開く。内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。無調整。
1417	須恵器 杯形土器	口縁～体部上位残存 口 (14.0cm)	埋没土	①細砂を少量含む。 ②酸化焙。 ③浅黄2.5Y7/3	丸みをもって外反する体部。内外面 口縁部～体部回転ナデ。
1410	土師器 甕形土器	口縁～体部下位 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (18.4cm)	竈内 使用面上6cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③橙7.5YR6/6	体部の膨らみが少なく、口縁部下位と上位の屈曲が弱い。外面 口縁部横ナデ。体部上位横方向篋削り後、下半縦方向篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部横方向丁寧なナデ。
1414	須恵器 長頸 壺形土器	体部下位のみ残存	南壁寄り 床面直上	①細砂・小礫を含む。 ②還元焙。 ③灰10Y5/1	直線的に外反する体部。外面 体部回転ナデ。下位篋ナデ。底部砂底？内面 体部～底部回転ナデ。
1413	須恵器 瓶	口縁部・把手欠損 底 8.5cm	竈左袖付近 床面直上	①微細砂を多く含む。 ②還元焙。 ③灰N6/	平底から、やや膨らみをもって外反する浅い体部に、水平に近い天井部がのる。天井部の端に頸部が直立する。外面 体部ナデ調整。底部切り離し技法不明。付高台。

11区方形遺構出土遺物観察表《土器》第148図

番号	器種	残法 存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴
1868	土師器 杯形土器	口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (14.0cm)	埋没土	①細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③橙5YR6/6	平底から、やや膨らみをもって外反する体部に至る。口縁部は大きく外反し、端部はやや内湾する。外面 口縁部横ナデ。体部横方向篋削り。底部篋削り。内面 口縁部横ナデ。体部ナデ後、放射状の細い篋磨き。
1866	須恵器 高台付 碗形土器	口縁～高台部 $\frac{1}{2}$ 破片 口 (15.5cm) 底 (8.0cm)	中央部 床面上4cm	①細砂・小礫を少量含む。 ②還元焙。 ③灰黄2.5Y7/2	下位に丸みをもつ深い体部で、断面長方形の低い高台を付す。内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。無調整。
1865	須恵器 高台付 碗形土器	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存 口 (16.2cm) 高 6.4cm 底 (9.0cm)	北東寄り 床面上2cm	①微細砂・細砂を含む。 ②還元焙。 ③にぶい黄橙10YR7/4	わずかな膨らみをもつ深い体部で、開いた高台を付す。体部にロクロ痕顯著。内外面 口縁部～体部回転ナデ。底部回転系切り。付高台。
1867	須恵器 高台付 碗形土器	底部残存 底 (8.0cm)	南東 床面上16.5cm	①微細砂・細砂を多く含む。 ②還元焙。 ③灰5Y6/1	断面長方形の高台部。外面 底部回転系切り。付高台。内面 底部回転ナデ。
1864	土師器 台付 甕形土器	台部 $\frac{1}{2}$ 残存 底 (10.3cm)	北西 床面上10.5cm	①微細砂を多く含む。 ②酸化焙。 ③にぶい褐7.5YR5/4	やや膨らんで大きく裾が開く台部破片。外面 台部丁寧なナデ調整。内面 台部丁寧なナデ調整。

群馬県埋蔵文化財調査事業団
発掘調査報告第223集

荒砥上ノ坊遺跡Ⅲ
歴史時代後半期の調査
《遺物観察表編》

昭和57年度県営圃場整備事業荒砥北部
地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

平成9年3月20日 印刷
平成9年3月25日 発行

編集・発行／群馬県教育委員会
〒371 前橋市大手町1丁目1番1号
電話 (027) 223-1111(代表)

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社